

**IBM WebSphere Information Integrator
Content Edition**



Content Integration Server インストール・ガイド

バージョン 8.3

**IBM WebSphere Information Integrator
Content Edition**



Content Integration Server インストール・ガイド

バージョン 8.3

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM の資料は、オンライン、または IBM 担当員を通してご注文いただけます。

- 資料をオンラインで注文する方法については、www.ibm.com/shop/publications/order にある「IBM Publications Center」にアクセスしてください。
- お客様の IBM 担当員に連絡する方法については、www.ibm.com/planetwide にある「IBM Directory of Worldwide Contacts」にアクセスしてください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-9619-00
IBM WebSphere Information Integrator
Content Edition
Installation Guide for Content Integration Server
Version 8.3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.11

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

Content Integration Server のインストール・ガイドについて

本書は、WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールするときに有効にご利用いただけます。

WebSphere Information Integrator Content Edition は、すべてのクラスの情報にフェデレーテッド・アクセスを提供します。これにより、グローバルな組織は、ポータル、共同アプリケーション、カスタマー・リレーションシップ・マネージメント、および、他のキー・アプリケーションが、拡張エンタープライズ全体の分散コンテンツおよび作業プロセスと連動できるようにします。

WebSphere Information Integrator Content Edition コンポーネントは、WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール時にインストールされます。コンテンツ統合サーバーという用語は、CD ラベルあるいは特定の製品コンポーネントに参照されている場合を除いて、文書では WebSphere Information Integrator Content Edition の代わりに使用されています。

本書は、WebSphere Application Server のインストール方法に関して具体的な情報は提供しません。WebSphere Application Server のインストールに関する詳細は、WebSphere Application Server の文書を参照してください。

本書の対象読者

コンテンツ統合サーバー・コンポーネントをインストールして WebSphere Application Server または WebLogic アプリケーション・サーバーにデプロイする場合に、本書をお読みください。ご使用のオペレーティング・システムの構成方法を理解し、システム管理者の特権および権限を持っていることが必要です。

WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールする前に、ご使用のアプリケーション・サーバーの文書をご一読ください。

目次

Content Integration Server のインストール・ガイドについて	iii
第 1 章 インストール概要	1
第 2 章 必要なソフトウェアとサポートされるオペレーティング・システム	5
リポジトリの対応コネクタおよび必要なバージョン	6
第 3 章 ハードウェア要件	9
第 4 章 シングル・サーバーと分散サーバーのインストール概要	11
第 5 章 シングル・サーバーへの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール	17
第 6 章 分散環境への WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール	21
第 7 章 コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行できるように構成する	25
第 8 章 コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする	27
WebSphere Application Server の管理	27
WebSphere Application Server の開始と停止	28
WebSphere Application Server 管理コンソールの開始	29
WebSphere Application Server 管理コンソールのナビゲート	30
WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成	31
WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーを自動デプロイする	32
WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成	33
WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする	38
WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用のコンテンツ統合サーバーの構成	42
WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする	43
WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のコンテンツ統合サーバーのアプリケーションの構成	47

WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成	48
第 9 章 ベンダー提供のアプリケーション・サーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイする	51
第 10 章 WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする	53
WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成	55
第 11 章 WebLogic アプリケーション・サーバーのセキュリティーの構成	59
第 12 章 Remote Method Invocation (RMI) プロキシ・コネクタ・サーバーの開始	61
第 13 章 リモート・コンピューターを WebSphere Application Server にホストされている WebSphere Information Integrator Content Edition に対するクライアントとして構成する	63
第 14 章 Web アプリケーションを展開形式でデプロイする	65
第 15 章 Java クライアントのデプロイメント	67
第 16 章 コンテンツ統合サーバー EAR パッケージ機能ユーティリティー	69
第 17 章 データ・ストア・サービスの開始	71
第 18 章 製品情報とヘルプへのアクセス	73
WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール	73
イントラネット・インフォメーション・センターを使用するための Web クライアントと管理ツールの構成	74
第 19 章 インフォメーション・センターの開始	77

第 20 章 コンテンツ統合サーバーの開始	79
第 21 章 WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール	81
特記事項	83

商標	85
IBM と連絡を取る	87
製品情報	87
索引	89

第 1 章 インストール概要

WebSphere Information Integrator Content Edition インストール・ウィザードの実行時に、インストールする WebSphere Information Integrator Content Edition コンポーネントとコネクタを選択できます。コンポーネントとコネクタをインストールしたら、その他の構成ステップを完了させる必要があります。

WebSphere® Information Integrator Content Edition のコンポーネント

WebSphere Information Integrator Content Edition、バージョン 8.3 には、以下のコンポーネントが含まれます。

エンタープライズ・アーカイブ

完全な WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーションには、すべてのエンタープライズ Bean、Web アプリケーション、およびサポートする Java™ Archives が含まれ、これらが J2EE 準拠のアプリケーション・サーバーに簡単にデプロイできるように、単一のエンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルにバンドルされます。インストーラーは、WebSphere Information Integrator Content Edition インストール・ディレクトリーに VeniceBridge.ear と呼ばれる EAR ファイルを作成します。

Enterprise JavaBeans™

WebSphere Information Integrator Content Edition の以下のコア・コンポーネントが、コンテンツ・リポジトリやワークフロー・システムへの全コネクタも含めて、エンタープライズ Bean としてインプリメントされます。

- アクセス・サービス
- サーバー結果セット
- ビュー・サービス
- コネクタ

管理ツールを使用して、JNDI 名と RMI URL を入力できます。これらは、コンテンツ統合サーバーの構成の一環として EJB によって必要とされません。

Web アプリケーション

WebSphere Information Integrator Content Edition には、少なくとも、サービス・モニター Web アプリケーションが含まれます。

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール時に、Web クライアントとサブスクリプション・イベント・サービスの管理アプリケーションをインストールするかどうかを選択できます。

サービス

WebSphere Information Integrator Content Edition の基本コンポーネントである、エンタープライズ Bean は J2EE アプリケーション・サーバーで実行されるように設計されていて、スケーラビリティ、ポータビリティ、フォールト・トレランス、その他の利点を、コンテンツ統合サーバーを使用する

アプリケーションにもたらしめます。ただし、エンタープライズ Bean の構成モデルでは、エンタープライズ Bean をデプロイする前に、EJB デプロイメント記述子を使用してエンタープライズ Bean を静的に構成することを推奨しています。エンタープライズ Bean を静的に構成する場合、アプリケーションの構成変更があるたびに、アプリケーションを再デプロイする必要があります。さらに、EJB 構成モデルでは、エンタープライズ Bean に大きな制限 (例えば、スレッド管理ができない、など) が加えられています。

EJB モデルの制限に対応し、かつ EJB の仕様に準ずるために、一部のサービスはアプリケーション・サーバーの EJB コンテナの外で実行されます。標準インストールでは、これらのサービスは、サービス・モニター Web アプリケーションの一部として実行され、Java Remote Method Invocation (RMI) を使用して他のコンテンツ統合サーバー・コンポーネントと通信します。これらのサービスは、コンテンツ統合サーバーのクライアント API が使用されるときにいつでも使用可能である必要があります。ただし、これらのサービスはアプリケーション・サーバー自体とは関係なく、開始および停止することができます。

サービス・モニター

サービス・モニターは、さまざまなコンテンツ統合サーバー・サービスの状況をモニターすることができる簡単なユーティリティです。サービス・モニターを使用して、サービスの開始、停止、再始動ができ、状況メッセージを表示させることもできます。

管理ツール

管理ツールを使用して、インストール済みのコンテンツ統合サーバー・コンポーネントを構成することができます。管理ツールは、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを備えた Java アプリケーションで、スタンドアロン・モードで実行することも、あるいは、コンテンツ統合サーバーの構成サーバーと接続しながら、動的に構成を変更することもできます。管理ツールは、シェル・スクリプトを使用して開始します。

オプション・パッケージ

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール時に、ビジネス・ニーズによって必要な場合もある、以下のオプション・パッケージのインストールを選択できます。

表 1. コンテンツ統合サーバーのオプション・パッケージ

オプション・パッケージ	目的
サブスクリプション・イベント・サービス	コンテンツ、フォルダー、作業項目、およびキューの変更をサブスクライブするためのフレームワークを提供します。
Web クライアント	ブラウザー・ベースのアプリケーションで、コンテンツ統合サーバーの機能へのアクセスを提供します。また、Web クライアントには、コンテンツ対応 Web アプリケーションの開発に必要な Web コンポーネントも含まれます。

関連概念

11 ページの『第 4 章 シングル・サーバーと分散サーバーのインストール概要』

WebSphere Information Integrator Content Edition の全コンポーネントは、さまざまなシステムアーキテクチャー要件に対応するため、シングル・サーバー・インストールも、多くのサーバーにわたる分散インストールも可能です。分散サーバーのインストールの実行は、シングル・サーバーのインストールに比べて複雑なため、J2EE の概念やデプロイメントの手順、さらに WebSphere Information Integrator Content Edition とそのコンポーネントに関して十分な知識が必要です。

第 2 章 必要なソフトウェアとサポートされるオペレーティング・システム

WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールする前に、必要なソフトウェアとサポートされるオペレーティング・システムがあることを確認してください。

サポートされるオペレーティング・システム

Microsoft® Windows® オペレーティング・システム上で稼働するアプリケーション・サーバーの場合、コンテンツ統合サーバーは以下のオペレーティング・システムで実行されます。

- Windows 2000
- Windows 2003

UNIX®, Linux®, または AIX® オペレーティング・システム上で稼働するアプリケーション・サーバーの場合、コンテンツ統合サーバーは以下のオペレーティング・システムで実行されます。

- IBM® AIX 5.2 (Power 4)
- IBM AIX 5.3 (Power 5)
- Red Hat Enterprise Linux AS 3
- Red Hat Enterprise Linux AS 4
- Solaris 9
- SUSE LINUX Enterprise Server 9 (SLES9)

Java の必要なレベル

コンテンツ統合サーバーは、1.4.2 と互換のある任意の Java Virtual Machine (JVM) で稼働しますが、一部のプラットフォームでのみサポートされます。特定のコンネクターは、ネイティブ・ライブラリーへのアクセスを必要とする場合があります、それらのネイティブ・ライブラリーが使用可能なプラットフォームに限定されています。

WebSphere Information Integrator Content Edition は、EJB アーキテクチャーを完全にサポートし、EJB 2.0 と互換性のあるアプリケーション・サーバーを必要とします。WebSphere Information Integrator Content Edition は、以下のアプリケーション・サーバーで実行されます。

- IBM WebSphere Application Server バージョン 5.1.1.3
- IBM WebSphere Application Server バージョン 6.0.0.2
- IBM WebSphere Application Server バージョン 6.0.1
- WebLogic Application Server バージョン 8.1 (SP4)

特定のアプリケーション・サーバーは特定のハードウェア・プラットフォームと Java VM バージョンを必要とする場合があります。

コンテンツ統合サーバーが完全な機能を提供するには、Java インフラストラクチャの以下に示す最小レベルを必要とします。

Java 2 Enterprise Edition (J2EE) バージョン 1.3 準拠のアプリケーション・サーバーで以下のものを含まます。

- Enterprise JavaBeans 2.0
- Java Message Service 1.0
- Java Server Pages 1.2
- Java Servlets 2.3

Java Management Extensions (JMX) が導入されている Java 2 Standard Edition (J2SE) の場合、以下のレベルが必要です。

- JMX 1.0
- Java Virtual Machine (JVM) 1.4.2 以降

関連資料

9 ページの『第 3 章 ハードウェア要件』

プロセッサ、メモリ、およびディスク・スペースの要件は、ご使用のオペレーティング・システム および、計画しているコンテンツ統合サーバーの使用方法によって決まります。カスタム・アプリケーション、ハイ・ボリューム、大規模文書サイズ、あるいは大規模イメージ・サイズの場合、追加メモリあるいはプロセッサに追加の能力が必要になることがあります。ご使用のアプリケーション・サーバーで、最小限のプロセッサ、メモリ、およびディスク・スペース要件が追加で課せられる場合があります。

リポジトリの対応コネクタおよび必要なバージョン

WebSphere Information Integrator Content Edition は、さまざまなコンテンツ・リポジトリへのアクセスを可能にするコネクタを提供します。各コネクタは、関連したリポジトリの特定のバージョンをサポートします。

WebSphere Information Integrator Content Edition コネクタは、以下のリポジトリとバージョンをサポートします。

IBM DB2[®] Content Manager

IBM DB2 Content Manager 8.2 を使用している場合は、IBM DB2 Information Integrator for Content (旧称 Enterprise Information Portal)、バージョン 8.2 以降 (IBM DB2 Content Manager 8.3 の場合は必要ではありません。)

IBM DB2 Content Manager バージョン 8.2 以降

IBM DB2 Content Manager OnDemand

IBM WebSphere Information Integrator for Content 8.2 フィックスパック 8 (IBM OnDemand 7.1 Connector を使用)

IBM WebSphere Information Integrator for Content 8.3

IBM Lotus[®] Domino[®] Document Manager

Lotus Notes[®]: Lotus Notes のサポートされるバージョンについては、IBM Lotus Domino Document Manager の文書を参照してください。

IBM Lotus Domino Document Manager 6.5.1

Domino Document Manager Desktop Enabler for Domino Document Manager 6.5.1(この製品は、 Lotus Domino Document Manager コネクタのあるサーバー上にインストールする必要があります。)

IBM Lotus Notes

Lotus Notes Client 5.0.5 以降

Lotus Domino Server 5.0.5

IBM Lotus Notes 6

Lotus Domino Server 6.0

IBM WebSphere MQ Workflow

IBM MQSeries® バージョン 5.3 および IBM WebSphere MQ Workflow 3.6 (Java クライアント API (fmcojapi.jar) を含みます)

IBM WebSphere Portal Document Manager

WebSphere Application Server 5.1.1.3 および WebSphere Portal Server 5.1.0.1

WebSphere Application Server 6.0.1 および WebSphere Portal Server 5.1.0.1

Documentum

Documentum Foundation Classes バージョン 4.2.x (Documentum 4.2.x 接続用)

Documentum Foundation Classes バージョン 5.2.5 (Documentum 5.2.5 または 4.2.x 接続用)

Documentum Foundation Classes バージョン 5.3 (Documentum 5.2.5 または 5.3 接続用)

FileNet BPM

FileNet BPM 3.0 および 3.5

FileNet CS および FileNet IS

FileNet IDM Client 3.3 FP1

FileNet IS 3.6 および 4.0

FileNet CS 5.3 および 5.4

FileNet Image Services Resource Adapter

FileNet Images Services Resource Adapter バージョン 3.2 以降

FileNet P8 Content Manager

FileNet P8 Content Manager 3.0 および 3.5

Hummingbird® DM

Hummingbird DM 5.1.0.5 SR4

Interwoven TeamSite

Interwoven TeamSite 5.5.2 および 6.5.1

Microsoft NTFS

Windows NTFS ベースのファイル・システム (Windows 2000、 Windows Server 2003)。 FAT および FAT32 ファイル・システムはサポートされません。

Microsoft Indexing Service。Microsoft Indexing Service は、通常、デフォルトで Windows 2000 および Windows Server 2003 オペレーティング・システムにインストールされます。

OpenText Livelink

OpenText Livelink API バージョン 9.5

リレーショナル・データベース管理システム・コネクタ (RDBMS)

JDBC 2.0 準拠のドライバーがある、任意のリレーショナル・データベース管理システム

Stellent

Stellent Content Server 5.1.1

関連概念

コネクタ

関連資料

9 ページの『第 3 章 ハードウェア要件』

プロセッサ、メモリー、およびディスク・スペースの要件は、ご使用のオペレーティング・システム および、計画しているコンテンツ統合サーバーの使用方法によって決まります。カスタム・アプリケーション、ハイ・ボリューム、大規模文書サイズ、あるいは大規模イメージ・サイズの場合、追加メモリーあるいはプロセッサに追加の能力が必要になることがあります。ご使用のアプリケーション・サーバーで、最小限のプロセッサ、メモリー、およびディスク・スペース要件が追加で課せられる場合があります。

第 3 章 ハードウェア要件

プロセッサ、メモリー、およびディスク・スペースの要件は、ご使用のオペレーティング・システムおよび、計画しているコンテンツ統合サーバーの使用方法によって決まります。カスタム・アプリケーション、ハイ・ボリューム、大規模文書サイズ、あるいは大規模イメージ・サイズの場合、追加メモリーあるいはプロセッサに追加の能力が必要になることがあります。ご使用のアプリケーション・サーバーで、最小限のプロセッサ、メモリー、およびディスク・スペース要件が追加で課せられる場合があります。

WebSphere Information Integrator Content Edition のディスク・スペース要件
500 MB

**コンテンツ統合サーバー用のブラウザ・クライアント (ビューアー・アプレット
あるいは Web クライアント)**

128 MB のフリー RAM

Intel® Pentium® III 500 MHz 以上 (または同等の RISC)

イメージ・サイズ、カラー深度、およびフォーマットの変換によっては、クライアント・コンピューターのメモリーおよび処理能力を大幅に必要とする場合があります。

インフォメーション・センターおよび他の文書 (サポートされるすべての言語に対応) 用のディスク・スペース要件

250 MB

コンテンツ統合サーバー用 Java クライアント

256 MB のフリー RAM

Intel Pentium III 500 MHz 以上 (または同等の RISC)

コンテンツ統合サーバー用 Java 開発者ワークステーション

256 MB のフリー RAM

Intel Pentium 4 1.4 GHz 以上 (または同等の RISC)

コンテンツ統合サーバー用のサーバー (ワークグループ開発)

1 GB のフリー RAM

Dual Intel Pentium Xeon 1 GHz 以上 (または同等の RISC)

関連概念

6 ページの『リポジトリーの対応コネクタおよび必要なバージョン』

WebSphere Information Integrator Content Edition は、さまざまなコンテンツ・リポジトリーへのアクセスを可能にするコネクタを提供します。各コネクタは、関連したリポジトリーの特定のバージョンをサポートします。

関連資料

5 ページの『第 2 章 必要なソフトウェアとサポートされるオペレーティング・システム』

WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールする前に、必要なソフトウェアとサポートされるオペレーティング・システムがあることを確認してください。

第 4 章 シングル・サーバーと分散サーバーのインストール概要

WebSphere Information Integrator Content Edition の全コンポーネントは、さまざまなシステムアーキテクチャー要件に対応するため、シングル・サーバー・インストールも、多くのサーバーにわたる分散インストールも可能です。分散サーバーのインストールの実行は、シングル・サーバーのインストールに比べて複雑なため、J2EE の概念やデプロイメントの手順、さらに WebSphere Information Integrator Content Edition とそのコンポーネントに関して十分な知識が必要です。

シングル・サーバーのインストールは、最少の手順で済み、サポートするコンテンツ・マネージメント・システムへのアクセスを含む、すべての主要な WebSphere Information Integrator Content Edition 機能に高速アクセスが可能になります。シングル・サーバーのインストールでは、WebSphere Information Integrator Content Edition とアプリケーション・サーバーは、同一サーバーにインストールされて、WebSphere Information Integrator Content Edition は、アプリケーション・サーバーに 1 アプリケーションとしてデプロイされます。

以下の図は、シングル・サーバーの構成を示します。

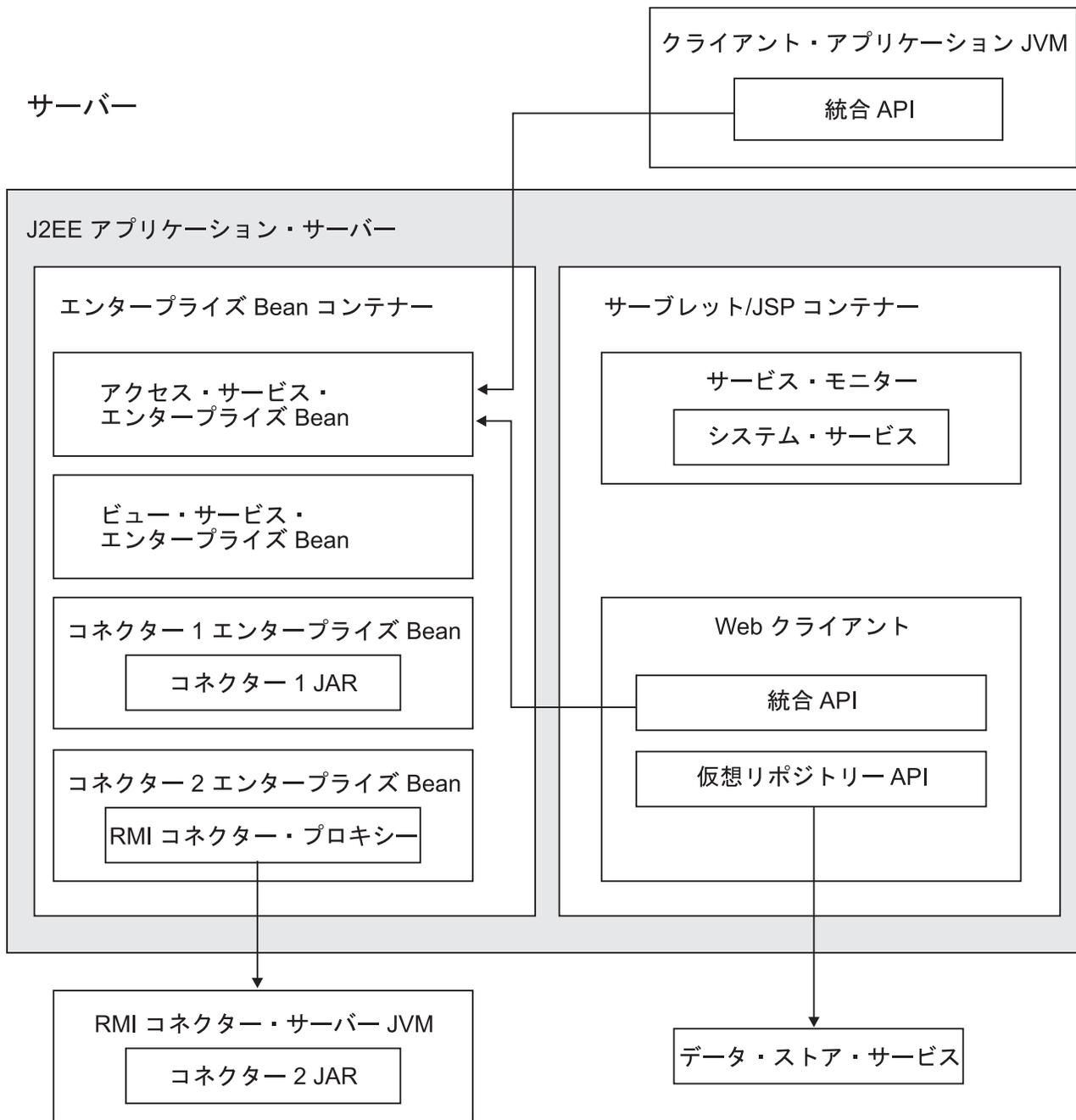


図 1. シングル・サーバー構成

特定のオペレーティング・システムでのみサポートされるコネクタや、特定のスケラビリティ・モデルのサポートなど、システム・アーキテクチャーの考慮事項があると、分散サーバーのインストールが必要になる場合があります。以下のような場合で、分散サーバーのインストールが必要になります。

- コネクタ・サーバーが、コンテンツ統合サーバーのアクセス・サービスと分離していて、J2EE アプリケーション・サーバーまたは RMI プロキシ・コネクタ・サーバーで実行されている。ハイ・ボリュームあるいはコネクタが特定のプラットフォームを必要とする場合に対応するシナリオです。

- プレゼンテーション・サーバーの個別のクラスターが、コンテンツ統合サーバーと仮想リポジトリ API を使用するカスタム Web アプリケーションを実行している。コンテンツ統合サーバーとは関係なく、カスタム・アプリケーションをスケールアップする場合に対応するシナリオです。
- ビュー・サービスを伴うアプリケーション・サーバーの個別のクラスターが、サーバー・サイドの変換やイメージ処理のハイ・ボリュームの要求をサポートするためにデプロイされている。
- カスタム Web アプリケーション、アクセス・サービスとコネクターのエンタープライズ Bean、および冗長化分散コンテンツ統合サーバーのサービス・プロセス用に、フェイルオーバー・クラスターのある、高度に冗長的なフォールト・トレラント環境。このシナリオでは、ハードウェアやソフトウェア・コンポーネントの障害が起こっても、アプリケーションは確実に実行を継続することができるようになります。

以下の図は、分散サーバー構成の WebSphere Information Integrator Content Edition コンポーネントを示します。

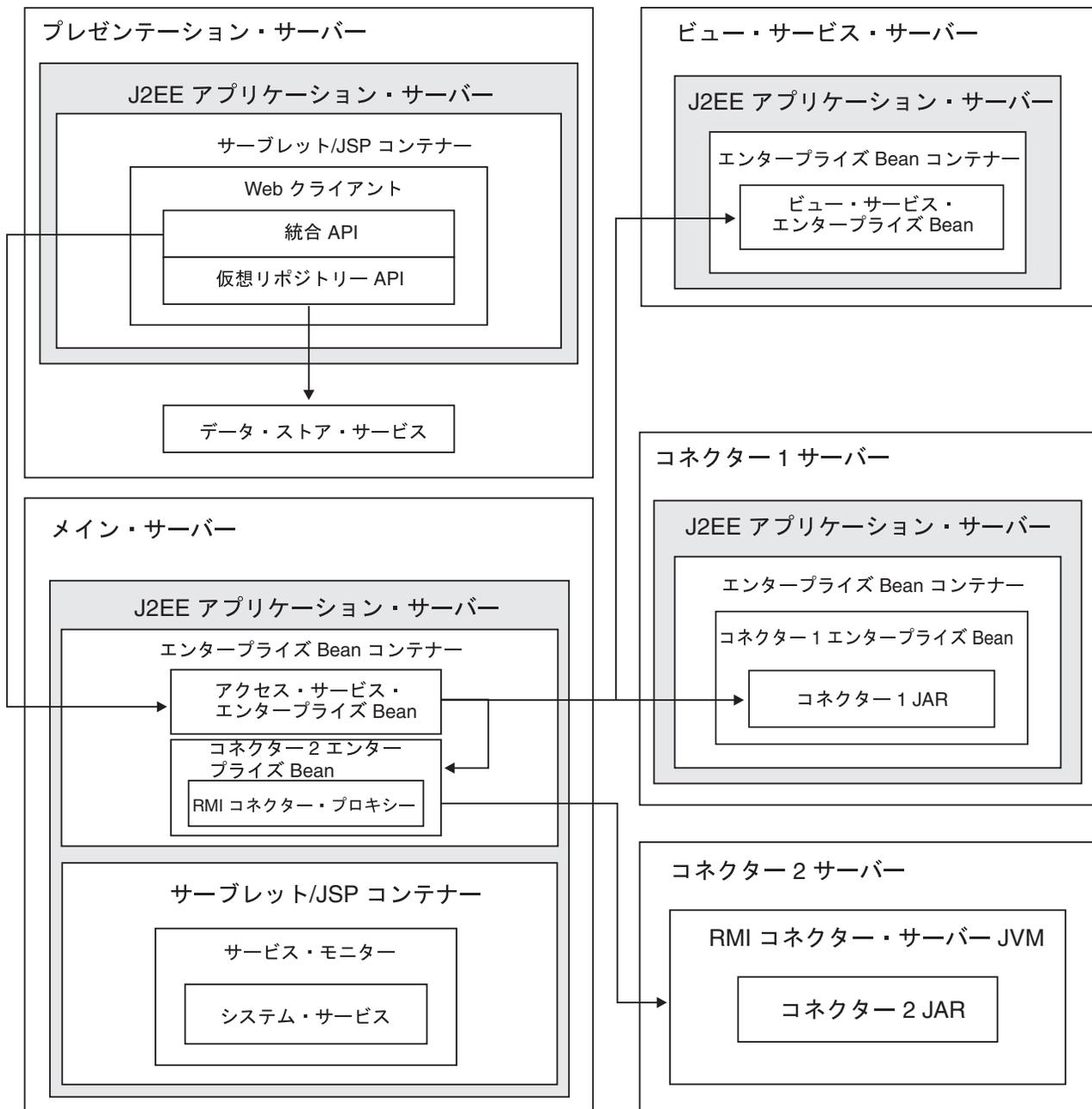


図 2. 分散サーバー構成

関連概念

1 ページの『第 1 章 インストール概要』

WebSphere Information Integrator Content Edition インストール・ウィザードの実行時に、インストールする WebSphere Information Integrator Content Edition コンポーネントとコネクタを選択できます。コンポーネントとコネクタをインストールしたら、その他の構成ステップを完了させる必要があります。

関連タスク

17 ページの『第 5 章 シングル・サーバーへの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール』

シングル・サーバーのインストールは、最少の手順で済み、すべての主要な WebSphere Information Integrator Content Edition 機能へのアクセスが可能になります。

第 5 章 シングル・サーバーへの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール

シングル・サーバーのインストールは、最少の手順で済み、すべての主要な WebSphere Information Integrator Content Edition 機能へのアクセスが可能になります。

始める前に

ご使用のオペレーティング・システムのレベルが、サポートされている正しいレベルであることを確認します。

コンテンツ統合サーバーのコンポーネントをデプロイする予定の J2EE アプリケーション・サーバーをインストールする必要があります。

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にデプロイする場合、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 をインストールする前に WebSphere Application Server、フィックスパック 6.0.0.2 をインストールする必要があります。

コンテンツ統合サーバーの EAR ファイルをデプロイするために使用可能な既存のアプリケーション・サーバーがある必要があります。

このタスクについて

シングル・サーバーのインストールの場合、すべての前提ソフトウェアとコンテンツ統合サーバーを 1 つのサーバーにインストールします。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 が同一サーバーにインストールされている場合は、インストーラー・プログラムにより、コンテンツ統合サーバーをアプリケーション・サーバーに自動でデプロイするオプションがあります。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 以外のアプリケーション・サーバーの場合は、そのアプリケーション・サーバーの文書に従ってコンテンツ統合サーバーを手動でデプロイする必要があります。

手順

コンテンツ統合サーバーをシングル・サーバーにインストールするには以下のようになります。

1. コマンド行から WebSphere Information Integrator Content Edition インストール・ウィザードを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインし、./setupaix を入力します。

Linux root ユーザーとしてログインし、./setupLinux.bin を入力します。

Solaris (SPARC)

root ユーザーとしてログインし、./setupSolaris.bin を入力します。

Solaris (Intel x86)

root ユーザーとしてログインし、./setupSolarisx86.bin を入力します。

UNIX (コンテンツ統合サーバーでサポートされていない UNIX オペレーティング・システムの場合)

root ユーザーとしてログインし、./setupUnix.sh を入力します。

Windows

管理者としてログインし、setupwin32.exe を入力します。

また、以下のコマンドのいずれかを入力してインストール・ウィザードを開始する方法もあります。

標準モード

```
java -cp setup.jar run
```

無音モード

```
java -cp setup.jar run -silent -optionsresponse_file
```

コンソール・モード

```
java -cp setup.jar run -console
```

応答ファイル・テンプレート

```
java -cp setup.jar run -options-template response_file
```

応答ファイルに対する記録オプション

```
java -cp setup.jar run -options-record response_file
```

2. インストール・ウィザードの言語を選択します。
3. コンテンツ統合サーバーのインストール・タイプとして「フル」を選択します。
4. 残りのプロンプトに応答します。
5. インストール・サマリーのウィンドウで、お客様の構成を見直してから、「次へ」をクリックします。
6. 「完了」をクリックします。
7. Windows オペレーティング・システムにコンテンツ統合サーバーをインストールしている場合は、コンピューターを再始動する必要があります。
8. コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にはデプロイしないという場合は、コンテンツ統合サーバーをご使用のアプリケーション・サーバーに手動でデプロイしてください。
9. 管理ツールを開始します。管理ツールの「オプション」ウィンドウが表示されます。
10. デフォルト設定を確認してください。
 - インストーラー・プログラムによってコンテンツ統合サーバーが WebSphere Application Server にデプロイされるように選択した場合は、「OK」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。
 - コンテンツ統合サーバーを他のアプリケーション・サーバーに手動でデプロイしているときは、デフォルト設定を変更する必要がある場合があります。
11. コネクターの構成を作成します。

12. コネクタの文書で説明されている、コネクタ固有の追加のインストール手順を実行します。
13. コネクタの構成をテストします。 管理ツールからコネクタ構成をテストするには、構成したコネクタを右クリックして、ドロップダウン・メニューから「**接続テスト**」をクリックします。
14. データ・ストア・サービスが実行されていることを確認します。 Windows では、データ・ストア・サービスは、サーバーの再始動時に自動で開始されています。他のオペレーティング・システムの場合は、データ・ストア・サービスを開始する必要があります。

関連概念

11 ページの『第 4 章 シングル・サーバーと分散サーバーのインストール概要』

WebSphere Information Integrator Content Edition の全コンポーネントは、さまざまなシステムアーキテクチャ要件に対応するため、シングル・サーバー・インストールも、多くのサーバーにわたる分散インストールも可能です。分散サーバーのインストールの実行は、シングル・サーバーのインストールに比べて複雑なため、J2EE の概念やデプロイメントの手順、さらに WebSphere Information Integrator Content Edition とそのコンポーネントに関して十分な知識が必要です。

コネクタ

関連タスク

71 ページの『第 17 章 データ・ストア・サービスの開始』

データ・ストア・サービスは、アプリケーション・サーバーの外で実行されるネイティブ・コンポーネントです。

管理ツールの開始

コネクタの構成

51 ページの『第 9 章 ベンダー提供のアプリケーション・サーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

コンテンツ統合サーバーは WebSphere Application Server バージョン 6.0.1、WebSphere Application Server バージョン 5.1.1、および WebLogic Application Server バージョン 8.1 (SP4) にデプロイできます。

81 ページの『第 21 章 WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール』

WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール・プログラムは、サブスクリプション・イベント・サービス、Web クライアント、およびコネクタを含む WebSphere Information Integrator Content Edition を除去します。

第 6 章 分散環境への WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール

WebSphere Information Integrator Content Edition を分散サーバー環境に、インストールすることができます。

このタスクについて

コンテンツ統合サーバーの分散アーキテクチャーへのインストールは、コンテンツ統合サーバーの管理について訓練を積まれた方が、または、J2EE アプリケーション・デプロイメントを経験された方のみ実行すべき上級レベルの作業です。

分散環境に WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールする具体的な手順は、システム・アーキテクチャーによって異なります。

手順

分散環境に WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールするには、以下のようにします。

1. コマンド行から、WebSphere Information Integrator Content Edition インストール・ウィザードを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインし、`./setupaix` を入力します。

Linux root ユーザーとしてログインし、`./setupLinux.bin` を入力します。

Solaris (SPARC)

root ユーザーとしてログインし、`./setupSolaris.bin` を入力します。

Solaris (Intel x86)

root ユーザーとしてログインし、`./setupSolarisx86.bin` を入力します。

UNIX (コンテンツ統合サーバーでサポートされていない UNIX オペレーティング・システムの場合)

root ユーザーとしてログインし、コマンド行で `./setupUnix.sh` を入力します。

Windows

root ユーザーとしてログインし、コマンド行で `setupwin32.exe` を入力します。

また、以下のコマンドのいずれかを入力してインストール・ウィザードを開始する方法もあります。

標準モード

```
java -cp setup.jar run
```

無音モード

```
java -cp setup.jar run -silent -optionsresponse_file
```

コンソール・モード

```
java -cp setup.jar run -console
```

応答ファイル・テンプレート

```
java -cp setup.jar run -options-template response_file
```

応答ファイルに対する記録オプション

```
java -cp setup.jar run -options-record response_file
```

2. インストール・ウィザードの言語を選択します。
3. コンテンツ統合サーバーのインストール・タイプとして「フル」を選択します。
4. 残りのプロンプトに応答します。
5. インストール・サマリーのウィンドウで、お客様の構成を見直してから、「次へ」をクリックします。
6. 「完了」をクリックします。
7. Windows オペレーティング・システムにコンテンツ統合サーバーをインストールしている場合は、インストールの完了後にコンピューターを再始動する必要があります。
8. コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にはデプロイしないという場合は、コンテンツ統合サーバーをご使用のアプリケーション・サーバーに手動でデプロイしてください。
9. コンテンツ統合サーバーのアクセス・サービスが複数のサーバー上で実行される場合は、アクセス・サービスを動かす予定の各サーバーでインストール作業を繰り返してください。
10. コンポーネント (JAR、WAR およびネイティブ・ライブラリー) を、必要とするサーバーにコピーしてから、コンポーネントをデプロイし、開始してください。ご使用の分散システム・アーキテクチャー内の各サーバーの役割に対応する必要なコンポーネントを決定するには、コンテンツ統合サーバーの配布内容を参照してください。
11. データ・ストア・サービスが実行されていることを確認します。Windows では、データ・ストア・サービスは、サーバーの再始動時に自動で開始されています。他のオペレーティング・システムの場合は、データ・ストア・サービスを開始する必要があります。
12. アクセス・サービスを実行する各コンピューターでアプリケーション・サーバーを開始します。
13. 管理ツールを開始します。管理ツールの「オプション」ウィンドウが表示されます。
14. デフォルト設定を確認してください。
 - インストーラー・プログラムによってコンテンツ統合サーバーが WebSphere Application Server にデプロイされるように選択した場合は、「OK」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。
 - コンテンツ統合サーバーを他のアプリケーション・サーバーに手動でデプロイしているときは、デフォルト設定を変更する必要がある場合があります。
15. コネクタを構成します。
16. コネクタの文書で説明されている、コネクタ固有の追加のインストール手順を実行します。

17. ご使用のメイン・アクセス・サービス・サーバー上にデプロイされていないコンポーネントについて、各コンポーネントを選択し、コンポーネントがデプロイされる場所を指定するために必要な設定を更新します。
18. コネクタ構成をテストします。管理ツールからコネクタ構成をテストするには、構成したコネクタを右クリックして、ドロップダウン・メニューから「接続テスト」をクリックします。

関連概念

コネクタ

関連タスク

71 ページの『第 17 章 データ・ストア・サービスの開始』

データ・ストア・サービスは、アプリケーション・サーバーの外で実行されるネイティブ・コンポーネントです。

管理ツールの開始

コネクタの構成

81 ページの『第 21 章 WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール』

WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール・プログラムは、サブスクリプション・イベント・サービス、Web クライアント、およびコネクタを含む WebSphere Information Integrator Content Edition を除去します。

関連資料

インストール・ディレクトリー構造の概要

第 7 章 コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行できるように構成する

コンテンツ統合サーバーの機能の特定のサブセットのみが必要で、コンテンツ統合サーバーを使用するためにアプリケーション・サーバーをインストールできない場合に、コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行することができます。

このタスクについて

コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行する場合、コンテンツ統合サーバーをアプリケーション・サーバーにデプロイする必要はありません。ただし、直接モードで実行しているときは、コンテンツ統合サーバーの多くの機能が利用できません。直接モード使用のアプリケーションは、スケーラビリティ、ロード・バランシング、および高い信頼性などのアプリケーション・サーバーの重要な機能の利点を享受できません。このような理由から、コンテンツ統合サーバーを利用するほとんどの場合に、直接モードはお奨めしません。

直接モードのアプリケーションは、コンテンツ統合サーバーのインストール直後から実行できます。

コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行する場合、統合 API 機能はクライアント内に完全に組み込まれます。接続は、クライアントからネイティブ・リポジトリへ直接作成されるか、または、RMI プロキシ・コネクタが使用される場合は、ネイティブ・リポジトリ用のコネクタがあるサーバーに直接作成されます。ロギング・サービスなどのコンテンツ統合サーバー用のサービスは、コンテンツ統合サーバーが直接モードで実行されている場合も使用可能ですが、ログ・サービスは手動で開始する必要があります。

以下のコンテンツ統合サーバーの機能は、コンテンツ統合サーバーが直接モードで実行されている場合には、使用できません。

- フェデレーテッド照会
- HTTP アクセス
- セッション・プール
- SOAP クライアント・プロキシ
- サブスクリプション・イベント・サービス
- URL アドレッシング機能
- ビューアー・アプレット
- ビュー・サービス
- Web クライアント
- Web コンポーネント
- WebServices API

手順

コンテンツ統合サーバーを直接モードで実行できるように構成するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・クラスのパス設定を確認します。直接モードで使用する各コネクタのクラス・パスに、コネクタ JAR ファイルを追加する必要があります。それ以外の場合は、デフォルトのクラス・パス設定を使用して直接モードで実行できます。
2. アプリケーション Java 仮想マシンの `vbr.as.operationMode` システム・プロパティを値 `direct` に設定します。このシステム・プロパティのデフォルト値は、`server` です。

関連タスク

管理ツールの開始

第 8 章 コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server 環境にデプロイする前に、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 またはバージョン 5.1.1、および WebSphere Information Integrator Content Edition、バージョン 8.3 をインストールする必要があります。

WebSphere Information Integrator Content Edition の文書では、以下の規則を使用します。

IICE_HOME

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール・ディレクトリー。

PROFILE_NAME

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 のプロファイル名。

WAS_HOME

WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリー。

関連概念

『WebSphere Application Server の管理』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする場合、ツールを使用して基本的なアプリケーション・サーバー管理用タスクを完了することができます。

関連タスク

31 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成』

新規プロファイルを作成し、そこにコンテンツ統合サーバーをデプロイすることができます。コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server の開始と停止には、プロファイル名を使用します。

32 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーを自動デプロイする』

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして自動的にデプロイするには、runDeployment スクリプトを使用します。

WebSphere Application Server の管理

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする場合、ツールを使用して基本的なアプリケーション・サーバー管理用タスクを完了することができます。

WebSphere Application Server の管理に関する詳細は、WebSphere Application Server インフォメーション・センターを参照してください。

関連概念

27 ページの『第 8 章 コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server 環境にデプロイする前に、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 またはバージョン 5.1.1、および WebSphere Information Integrator Content Edition、バージョン 8.3 をインストールする必要があります。

関連タスク

『WebSphere Application Server の開始と停止』

WebSphere Application Server の単一インストールには、複数の独立したアプリケーション・サーバーが含まれることがあります。コマンド・プロンプトからアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始および停止するには、`WAS_HOME` ディレクトリーにあるコマンドを使用できます。

29 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』

WebSphere Application Server 上にコンテンツ統合サーバーを手動でデプロイするには、管理コンソールを使用します。

30 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールのナビゲート』

WebSphere Application Server 管理コンソールは、情報を階層形式に編成します。この階層の上位レベルは、サーバー、アプリケーション、リソースなどの拡張可能なノードの集合として、左端のパネルに表示されます。

WebSphere Application Server の開始と停止

WebSphere Application Server の単一インストールには、複数の独立したアプリケーション・サーバーが含まれることがあります。コマンド・プロンプトからアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始および停止するには、`WAS_HOME` ディレクトリーにあるコマンドを使用できます。

このタスクについて

デフォルトの WebSphere Application Server バージョン 6.0 のインストールでは、`default` という名前のプロファイルとそのプロファイル用の `server1` アプリケーション・サーバーが作成されます。作成する各プロファイルは、`server1` という名前のアプリケーション・サーバーと関連付けられます。

WebSphere Application Server バージョン 6.0 では、アプリケーション・サーバーの開始および停止にプロファイル名が必要です。アプリケーション・サーバーは、プロファイル内に含まれているため、関連づけられているプロファイルを指定せずにサーバーを開始することはできません。`WAS_HOME/profiles/PROFILE_NAME/bin` ディレクトリーからは、プロファイル名なしでサーバーを開始することができます。あるいは、`WAS_HOME/bin` からサーバーを開始して、プロファイル名を組み込むこともできます。

手順

- WebSphere Application Server バージョン 6.0 のアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始するには以下のようにします。
 - Windows では、次のコマンドを使用して `ICEServer` という名前のプロファイル用のサーバーを開始します:

```
WAS_HOME¥profiles¥ICEServer¥bin¥startServer.bat server1
```

- UNIX では、次のコマンドを使用して *IICEServer* という名前のプロファイル用のサーバーを開始します:
`WAS_HOME/profiles/IICEServer/bin/startServer.sh server1`
- WebSphere Application Server バージョン 6.0 のアプリケーション・サーバー・インスタンスを停止するには以下のようにします。
 - Windows では、次のコマンドを使用して *IICEServer* という名前のプロファイルと関連付けられた *server1* を停止します:
`WAS_HOME%profiles%IICEServer%bin%stopServer.bat server1`
 - UNIX では、次のコマンドを使用して *IICEServer* という名前のプロファイルと関連付けられた *server1* を停止します:
`WAS_HOME/profiles/IICEServer/bin/stopServer.sh server1`
- WebSphere Application Server バージョン 5.1 のアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始するには以下のようにします。
 - Windows では、次のコマンドを使用して *server1* という名前のアプリケーション・サーバーを開始します: `C:%WebSphere%AppServer%bin%startServer.bat server1`
 - UNIX では、次のコマンドを使用して *server1* という名前のアプリケーション・サーバーを開始します: `/usr/WebSphere/AppServer/bin/startServer.sh server1`
- WebSphere Application Server バージョン 5.1 のアプリケーション・サーバー・インスタンスを停止するには以下のようにします。
 - Windows では、次のコマンドを使用して *server1* という名前のアプリケーション・サーバーを停止します: `C:%WebSphere%AppServer%bin%stopServer.bat server1`
 - UNIX では、次のコマンドを使用して *server1* という名前のアプリケーション・サーバーを停止します: `/usr/WebSphere/AppServer/bin/stopServer.sh server1`

関連概念

27 ページの『WebSphere Application Server の管理』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする場合、ツールを使用して基本的なアプリケーション・サーバー管理用タスクを完了することができます。

関連タスク

31 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成』

新規プロファイルを作成し、そこにコンテンツ統合サーバーをデプロイすることができます。コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server の開始と停止には、プロファイル名を使用します。

WebSphere Application Server 管理コンソールの開始

WebSphere Application Server 上にコンテンツ統合サーバーを手動でデプロイするには、管理コンソールを使用します。

このタスクについて

標準の WebSphere Application Server のインストールでは、管理コンソールをデフォルトのアプリケーション・サーバー、 `server1` に自動的にデプロイします。

手順

管理コンソールを使用するには、以下のようにします。

1. アプリケーション・サーバー `server1` を開始します。
2. ブラウザー・ウィンドウをオープンし、以下の URL を入力します。ここで `your_hostname` は、アプリケーション・サーバーが実行されているコンピュータの名前または IP アドレスと置き換えてください。

オプション	説明
WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合:	<code>http://your_hostname:9061/ibm/console</code>
WebSphere Application Server バージョン 5.1 をインストールしている場合:	<code>http://your_hostname:9090/admin</code>

この URL で WebSphere Application Server 管理コンソールのログイン・ウィンドウがロードされます。

3. WebSphere Application Server 管理コンソールにログインします。
 - アプリケーション・サーバーのセキュリティーがオフ (デフォルト) の場合、ユーザー ID フィールドには任意の値を入力してかまいません。
 - セキュリティーがオンの場合は、アプリケーション・サーバーのセキュリティー方式に応じて、適切な信用証明情報を入力する必要があります。

認証されると、管理コンソールのメインページが表示されます。

関連概念

27 ページの『WebSphere Application Server の管理』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする場合、ツールを使用して基本的なアプリケーション・サーバー管理用タスクを完了することができます。

関連タスク

31 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成』

新規プロファイルを作成し、そこにコンテンツ統合サーバーをデプロイすることができます。コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server の開始と停止には、プロファイル名を使用します。

43 ページの『WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをアプリケーションとしてデプロイできます。

WebSphere Application Server 管理コンソールのナビゲート

WebSphere Application Server 管理コンソールは、情報を階層形式に編成します。この階層の上位レベルは、サーバー、アプリケーション、リソースなどの拡張可能なノードの集合として、左端のパネルに表示されます。

手順

管理コンソールの領域をナビゲートするには、次のフォーマットを使用してアプリケーション・サーバー、例えば、*server1* に関する情報を検出します。

「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → *server1* → 「サーバー・メッセージング」 → 「メッセージング・エンジン」

管理コンソールでこの例の場所に移動するには、左のナビゲーション・パネルにある「サーバー」ノードを展開して、「アプリケーション・サーバー」を選択します。アプリケーション・サーバーのリストが右パネルに表示されます。このパネルから、*server1* を選択します。*server1* に関する情報がインターフェースの右パネルに表示されます。この情報には、詳細情報へのリンクが含まれています。例えば、セクション「サーバー・メッセージング」の下にある「メッセージング・エンジン」などです。

関連概念

27 ページの『WebSphere Application Server の管理』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする場合、ツールを使用して基本的なアプリケーション・サーバー管理用タスクを完了することができます。

関連タスク

『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成』
新規プロファイルを作成し、そこにコンテンツ統合サーバーをデプロイすることができます。コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server の開始と停止には、プロファイル名を使用します。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成

新規プロファイルを作成し、そこにコンテンツ統合サーバーをデプロイすることができます。コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server の開始と停止には、プロファイル名を使用します。

このタスクについて

デフォルトの WebSphere Application Server のインストールでは、default という名前の単一プロファイルが作成されます。新規に作成する各プロファイルは、*server1* という名前の単一アプリケーション・サーバーに関連付けられます。

手順

IICEServer という名前の新規プロファイルを作成するには以下のようにします。

- Windows のコマンド行で、次を入力します。

```
WAS_HOME%bin%wasprofile.bat -create -profileName IICEServer  
-profilePath "WAS_HOME%profiles%IICEServer"  
-templatePath "WAS_HOME%profileTemplates%default"  
-nodeName IICEServer -cellName IICEServer -hostName localhost  
-portsFile "IICE_HOME%websphere_deployment%responsefile.portdef.txt"
```

- UNIX シェルで、次を入力します。

```
WAS_HOME/bin/wasprofile.sh -create -profileName IICEServer
-profilePath WAS_HOME/profiles/IICEServer
-templatePath WAS_HOME/profileTemplates/default
-nodeName IICEServer -cellName IICEServer -hostName localhost
-portsFile IICE_HOME/websphere_deployment/responsefile.portdef.txt
```

responsefile.portdef.txt ファイルに定義されたポートが、デフォルト値として指定されています。ご使用の固有の環境に合わせてこのファイルを変更する必要がある場合があります。

関連概念

27 ページの『第 8 章 コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server 環境にデプロイする前に、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 またはバージョン 5.1.1、および WebSphere Information Integrator Content Edition、バージョン 8.3 をインストールする必要があります。

関連タスク

28 ページの『WebSphere Application Server の開始と停止』

WebSphere Application Server の単一インストールには、複数の独立したアプリケーション・サーバーが含まれることがあります。コマンド・プロンプトからアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始および停止するには、*WAS_HOME* ディレクトリーにあるコマンドを使用できます。

38 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして手動でデプロイできます。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーを自動デプロイする

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして自動的にデプロイするには、`runDeployment` スクリプトを使用します。

始める前に

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にアプリケーションとしてデプロイする前に WebSphere Information Integrator Content Edition と WebSphere Application Server を、同一コンピューター上にインストールする必要があります。

手順

`runDeployment` スクリプトを使用してコンテンツ統合サーバーをデプロイするには、以下のようにします。

1. *IICE_HOME*/websphere_deployment/responsefile.portdef.txt ファイルのポート割り当てを確認します。
2. `runDeployment` スクリプト用の以下のデプロイメント・オプションの値を確認します。

WAS_HOME

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 のインストール・ディレクトリー。

PROFILE_NAME

コンテンツ統合サーバーをデプロイするときに使用するプロファイル名。このプロファイルがない場合、デプロイメント・スクリプトがプロファイルを作成します。

ABSOLUTE_INSTALL_LOCATION

コンテンツ統合サーバーのインストール場所。

ESC_IICE_HOME

コンテンツ統合サーバーの拡張文字使用のインストール場所。

ESC_IICE_HOME は、ディレクトリーの区切り文字にダブルスラッシュが使用されていることを除いて、*ABSOLUTE_INSTALL_LOCATION* と同じです。*ESC_IICE_HOME* は、UNIX システムでは使用されないのので、*ABSOLUTE_INSTALL_LOCATION* と同じ値に設定してください。

3. runDeployment スクリプトを実行します。

- Windows の場合、コマンド行で次を入力します:
`IICE_HOME%websphere_deployment%runDeployment.bat`
- UNIX の場合、コマンド行で次を入力します:
`IICE_HOME/websphere_deployment/runDeployment.sh`

関連概念

27 ページの『第 8 章 コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイする』

コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server 環境にデプロイする前に、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 またはバージョン 5.1.1、および WebSphere Information Integrator Content Edition、バージョン 8.3 をインストールする必要があります。

関連タスク

71 ページの『第 17 章 データ・ストア・サービスの開始』

データ・ストア・サービスは、アプリケーション・サーバーの外で実行されるネイティブ・コンポーネントです。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成

インストール時に、WebSphere Information Integrator Content Edition を WebSphere Application Server に自動デプロイせず、WebSphere Information Integrator Content Edition を WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に手動デプロイしている場合で、サブスクリプション・イベント・サービスを WebSphere Information Integrator Content Edition インストール環境の一部としてインストールしたときはこれを構成する必要があります。

始める前に

サブスクリプション・イベント・サービスがコンテンツ統合サーバーと共にインストールされていることを確認します。

手順

サブスクリプション・イベント・サービスを構成するには、以下のようにします。

1. コンテンツ統合サーバーの JMS キュー用のサービス統合バスを作成します。
 - a. 「サービス統合」 → 「バス」 にナビゲートします。
 - b. 「新規」 をクリックします。
 - c. 以下のプロパティを入力します。
 - 名前: iiceSIB
 - d. 「OK」 をクリックします。
 - e. 作成したサービス統合バス用のリンクをクリックします。
 - f. 「追加プロパティ」 → 「バス・メンバー」 リンクをクリックします。
 - g. 「追加」 をクリックします。
 - h. 「サーバー」 ラジオ・ボタンを選択します。
 - i. サーバーに IICEServer: server1 を選択します。
 - j. データ・ストアのデフォルトが使用可能であることを確認します。
 - k. 「次へ」 をクリックします。
 - l. 「完了」 をクリックします。
 - m. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」 をクリックします。
 - n. 保存プロセスを完了するには「保存」 をクリックします。
2. JMS キュー接続ファクトリーを作成します。
 - a. 「リソース」 → 「JMS プロバイダー」 → 「デフォルトのメッセージング」 にナビゲートします。
 - b. 有効範囲を Server に設定し、「適用」 をクリックします。
 - c. 「接続ファクトリー」 → 「JMS キュー接続ファクトリー」 リンクをクリックします。
 - d. 「新規」 をクリックします。
 - e. 以下のプロパティを入力します。
 - 名前: VBRCnectionFactory
 - JNDI 名: VBRCnectionFactory
 - バス名: iiceSIB
 - f. 「OK」 をクリックします。
 - g. JMS キュー接続ファクトリー用のリンクをクリックします。
 - h. 「追加プロパティ」 → 「接続プール・プロパティ」 リンクをクリックします。
 - i. 最大接続数プロパティを 25 に設定します。
 - j. 「OK」 をクリックします。
 - k. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」 リンクをクリックします。
 - l. 保存プロセスを完了するには「保存」 ボタンをクリックします。
3. SIB JMS 宛先を作成します。

- a. 「サービス統合」 → 「バス」 → *iiceSIB* → 「追加プロパティ」 → 「宛先」にナビゲートします。
- b. 「新規」をクリックします。
- c. 「キュー」ラジオ・ボタンを選択します。
- d. 「次へ」をクリックします。
- e. 以下のプロパティを入力します。
 - ID: `sibVBRSubscriptionGroupProcessorQueue`
- f. 「次へ」をクリックします。
- g. ステップ 2 用に、キューをバス・メンバーに割り当てて、「次へ」をクリックします。
- h. 「完了」をクリックします。
- i. ステップ b から h を繰り返して、残りの 6 つの SIB JMS 宛先を追加します。

SIB 宛先 2

ID: `sibVBRContentMonitorQueue`

SIB 宛先 3

ID: `sibVBREventFilterQueue`

SIB 宛先 4

ID: `sibVBREventHandlerQueue`

SIB 宛先 5

ID: `sibVBRStatisticsQueue`

SIB 宛先 6

ID: `sibVBRSubscriptionServicesDLQ`

SIB 宛先 7

ID: `sibVBRMainDLQ`

- j. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」リンクをクリックします。
 - k. 保存プロセスを完了するには「保存」ボタンをクリックします。
4. JMS キュー宛先を作成します。

- a. 「リソース」 → 「JMS プロバイダー」 → 「デフォルトのメッセージング」にナビゲートします。
- b. 有効範囲を `Server` に設定し、「適用」をクリックします。
- c. 「宛先」 → 「JMS キュー」リンクをクリックします。
- d. 「新規」をクリックします。
- e. 以下のプロパティを入力します。

名前 `VBRSubscriptionGroupProcessorQueue`

JNDI 名

`queue/VBRSubscriptionGroupProcessorQueue`

バス名 `iiceSIB`

キュー名

`sibVBRSubscriptionGroupProcessorQueue`

説明 VBR サブスクリプション・グループ・プロセッサー

- f. 「**OK**」をクリックします。
- g. ステップ e. とステップ f. を繰り返して、残りの 6 つの JMS キュー宛先を追加します。

JMS キュー宛先 2

名前: VBRContentMonitorQueue
JNDI 名: queue/VBRContentMonitorQueue
バス名: iiceSIB
キュー名: sibVBRContentMonitorQueue
説明: VBR コンテンツ・モニター

JMS キュー宛先 3

名前: VBREventFilterQueue
JNDI 名: queue/VBREventFilterQueue
バス名: iiceSIB
キュー名: sibVBREventFilterQueue
説明: VBR イベント・フィルター

JMS キュー宛先 4

名前: VBREventHandlerQueue
JNDI 名: queue/VBREventHandlerQueue
バス名: iiceSIB
キュー名: sibVBREventHandlerQueue
説明: VBR イベント・ハンドラー

JMS キュー宛先 5

名前: VBRStatisticsQueue
JNDI 名: queue/VBRStatisticsQueue
バス名: iiceSIB
キュー名: sibVBRStatisticsQueue
説明: VBR 統計

JMS キュー宛先 6

名前: VBRSubscriptionServicesDLQ
JNDI 名: queue/VBRSubscriptionServicesDLQ
バス名: iiceSIB
キュー名: sibVBRSubscriptionServicesDLQ
説明: VBR サブスクリプション・サービス DLQ

JMS キュー宛先 7

名前: VBRMainDLQ
JNDI 名: queue/VBRMainDLQ
バス名: iiceSIB

キュー名: sibVBRMainDLQ

説明: VBR メイン DLQ

- h. 変更を保存するには、ページの上部にある「保存」をクリックします。
 - i. 保存プロセスを完了するには「保存」をクリックします。
5. SIB JMS 活動化仕様を作成します。
- a. 「リソース」 → 「JMS プロバイダー」 → 「デフォルトのメッセージング」にナビゲートします。
 - b. 有効範囲を Server に設定し、「適用」をクリックします。
 - c. 「活動化仕様」 → 「JMS 活動化仕様」リンクをクリックします。
 - d. 「新規」をクリックします。
 - e. 以下のプロパティを入力します。
 - 名前: asVBRSubscriptionGroupProcessorQueue
 - JNDI 名: eis/asVBRSubscriptionGroupProcessorQueue
 - 宛先 JNDI 名: queue/VBRSubscriptionGroupProcessorQueue
 - バス名: iiceSIB
 - f. 「OK」をクリックします。
 - g. ステップ d から f を繰り返して、残りの 6 つの SIB JMS 活動化仕様を追加します。

SIB JMS 活動化仕様 2

JNDI 名: eis/asVBRContentMonitorQueue

名前: asVBRContentMonitorQueue

宛先 JNDI 名: queue/VBRContentMonitorQueue

バス名: iiceSIB

SIB JMS 活動化仕様 3

名前: asVBREventFilterQueue

バス名: iiceSIB

JNDI 名: eis/asVBREventFilterQueue

宛先 JNDI 名: queue/VBREventFilterQueue

SIB JMS 活動化仕様 4

名前: asVBREventHandlerQueue

JNDI 名: eis/asVBREventHandlerQueue

宛先 JNDI 名: queue/VBREventHandlerQueue

バス名: iiceSIB

SIB JMS 活動化仕様 5

名前: asVBRStatisticsQueue

JNDI 名: eis/asVBRStatisticsQueue

宛先 JNDI 名: queue/VBRStatisticsQueue

バス名: iiceSIB

SIB JMS 活動化仕様 6

名前: asVBRSubscriptionServicesDLQ

JNDI 名: eis/asVBRSubscriptionServicesDLQ

宛先 JNDI 名: queue/VBRSubscriptionServicesDLQ

バス名: iiceSIB

SIB JMS 活動化仕様 7

名前: asVBRMainDLQ

JNDI 名: eis/asVBRMainDLQ

宛先 JNDI 名: queue/VBRMainDLQ

バス名: iiceSIB

- h. 変更を保存するには、ページの上部にある「保存」をクリックします。
- i. 保存プロセスを完了するには「保存」をクリックします。

関連概念

JMS キューの概要

関連タスク

『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして手動でデプロイできます。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして手動でデプロイできます。

始める前に

WebSphere Information Integrator Content Edition と WebSphere Application Server は、同一コンピューター上にインストールする必要があります。

手順

WebSphere Application Server に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして手動でデプロイするには以下のようにします。

1. *ICEServer* という名前の新規プロファイルを作成します。
2. *ICEServer* プロファイル用のアプリケーション・サーバーを開始します。
3. 新規 *ICEServer* プロファイルのポート情報を記録します。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → *server1* → 「通信」 → 「ポート」を選択します。
 - b. 以降のステップで使用するために、*wc_adminhost*、*wc_adminhost_secure*、および *BOOTSTRAP_ADDRESS* のポート番号を記録します。
4. デフォルトの仮想ホスト別名を、新規 HTTP トランスポートが組み込まれるように更新します。

- a. 「環境」 → 「仮想ホスト」 → *default_host* → 「追加プロパティ」 → 「ホスト別名」を選択します。
 - b. 先のステップで記録した *wc_adminhost* および *wc_adminhost_secure* HTTP トランスポートのホスト別名を定義するために、「新規」をクリックします。
 - c. それぞれのトランスポートで使用するホスト名 * を入力します。


```
New Alias 1
  Host Name: *
  Port: 9061

New Alias 2
  Host Name: *
  Port: 9044
```
 - d. 各別名に「OK」をクリックします。
 - e. それぞれの別名を作成後、変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
 - f. 保存プロセスを完了するには「保存」をクリックします。
5. コンテンツ統合サーバーの従属関係用の新規共用ライブラリーを作成します。
 - a. 「環境」 → 「共用ライブラリー」 にナビゲートします。
 - b. 有効範囲が *Node* に設定されていることを確認します。設定されていない場合、「ノード」ラジオ・ボタンを選択して「適用」をクリックします。
 - c. 「新規」をクリックします。
 - d. 新規共用ライブラリーに名前 *iiceDependencies* を付けます。
 - e. クラス・パスを、*IICE_HOME/datastore/datastore.jar* が組み込まれるように設定します。
 - f. ネイティブ・ライブラリー・パスを、*IICE_HOME/datastore* が組み込まれるように設定します。
 - g. 「OK」をクリックします。
 - h. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
 - i. 保存プロセスを完了するには「保存」をクリックします。
 6. 新規クラス・ローダーを以下のように作成します。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → *server1* → 「サーバー・インフラストラクチャー」 → 「Java およびプロセス管理」 → 「クラス・ローダー」を選択します。
 - b. 「新規」をクリックします。
 - c. クラス・ローダーのモードに「Parent First (親が最初)」を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「追加プロパティ」 → 「ライブラリー」リンクを選択します。
 - f. 「追加」をクリックします。
 - g. 先のステップで作成した *iiceDependencies* ライブラリーを選択し、「OK」をクリックします。
 - h. ライブラリー名に *iiceDependencies* を選択します。
 - i. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
 - j. 保存プロセスを完了するには「保存」をクリックします。

7. コンテンツ統合サーバーのホーム・ディレクトリーとヘッドレス・オプションをアプリケーション・サーバー Java 仮想マシンのプロパティー・セットに追加します。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → *server1* → 「サーバー・インフラストラクチャー」 → 「Java およびプロセス管理」 → 「プロセス定義」 → 「追加プロパティー」 → 「Java 仮想マシン」 → 「追加プロパティー」 → 「カスタム・プロパティー」を選択します。
 - b. 「新規」をクリックします。
 - c. 以下のプロパティーを入力します。
 - 1) 名前: *vbr.home*
 - 2) 値: *IICE_HOME*
 - 3) 説明: コンテンツ統合サーバーのインストール・ルート・ディレクトリー
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 「新規」をクリックします。
 - f. 以下のプロパティーを入力します。
 - 名前: *java.awt.headless*
 - 値: *true*
 - g. 「OK」をクリックします。
 - h. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
 - i. 保存プロセスを完了するには「保存」をクリックします。
8. サブスクリプション・イベント・サービスを以下のように構成します。
 - サブスクリプション・イベント・サービスがインストールされていて、ステップ 9 を完了していない場合は、コンテンツ統合サーバーは、アプリケーション・サーバーにはデプロイされません。
 - サブスクリプション・イベント・サービスがインストールされていない場合には、サブスクリプション・イベント・サービスを構成することを選択できます。サブスクリプション・イベント・サービスの構成を選択しない場合には、ステップ 9 から 11 をスキップします。
9. WebSphere Application Server 管理コンソールからログアウトします。
10. *IICEServer* プロファイル用のアプリケーション・サーバーを停止します。
11. *IICEServer* プロファイル用のアプリケーション・サーバーを開始します。
12. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。
13. *IICEServer* プロファイルにコンテンツ統合サーバー・アプリケーションをインストールします。
14. *IICEServer* プロファイルにコンテンツ統合サーバー・エンタープライズ・アプリケーションをインストールします。
 - a. 「アプリケーション」 → 「新規アプリケーションのインストール」を選択します。
 - b. *IICE_HOME* ディレクトリーの *VeniceBridge.ear* ファイルへのパスを指定するか、または、「参照」をクリックします。
 - c. 「次へ」をクリックします。

- d. アプリケーションのインストール準備のステップで、「次へ」をクリックします。
- e. セキュリティー警告が表示されます。この警告は無視してかまいません。「Continue (続行)」ボタンをクリックしてください。
- f. 以下の、新規アプリケーションをインストールするための WebSphere Application Server ステップを実行します。
 - 1) インストールを行うためのオプションの提供: 「リソース用の Mbeans の作成」のチェック・マークを外して、「次へ」をクリックします。
 - 2) サーバーにモジュールをマップ: 「次へ」をクリックします。
 - 3) EJB デプロイを行うためのオプション指定: 「次へ」をクリックします。
 - 4) Message-driven Bean のリスナー・バインディングを提供: 「活動化仕様」ラジオ・ボタンを選択し、対応する MDB の活動化仕様の JNDI 名を入力します。このステップは、サブスクリプション・イベント・サービスがインストールされている場合にのみ必要です。

SubscriptionGroupProcessorMDB

eis/asVBRSubscriptionGroupProcessorQueue

ContentMonitorMDB

eis/asVBRContentMonitorQueue

EventFilterMDB

eis/asVBREventFilterQueue

EventHandlerMDB

eis/asVBREventHandlerQueue

StatisticsProcessorMDB

eis/asVBRStatisticsQueue

- 「次へ」をクリックします。
 - アプリケーション・リソース警告メッセージで、「Continue (続行)」をクリックします。
- 5) Bean の JNDI 名を提供: 「次へ」をクリックします。
 - 6) Web モジュールの仮想ホストをマップ: 「次へ」をクリックします。
 - 7) セキュリティー役割をユーザー/グループにマップ: 「次へ」をクリックします。
 - 8) すべての無保護 1.x メソッドが正しい保護レベルを持っていることを確認: 「次へ」をクリックします。
 - 9) 要約: 「完了」をクリックします。アプリケーションがデプロイを開始します。このプロセスには、ご使用のハードウェアやコンテンツ統合サーバーのインストール時に選択したコネクタ数により、非常に長い時間がかかる場合があります。
- g. 変更を保存するには、「マスター構成に保管」リンクをクリックします。
15. FastObjects サーバーを開始します。UNIX 上でコンテンツ統合サーバーを実行している場合は、`IICE_HOME/bin/rdsservice.sh` スクリプトを実行してサーバーを開始します。Windows でコンテンツ統合サーバーを実行していて、サービ

スが開始されていない場合は、「コントロール パネル」 → 「管理ツール」 にナビゲートして、WebSphere Information Integrator Content Edition データ・ストア・サービスを開始します。

16. *ICEServer* プロファイルのアプリケーション・サーバー *server1* を停止してから再始動します。

関連タスク

33 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成』

インストール時に、WebSphere Information Integrator Content Edition を WebSphere Application Server に自動デプロイせず、WebSphere Information Integrator Content Edition を WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に手動デプロイしている場合で、サブスクリプション・イベント・サービスを WebSphere Information Integrator Content Edition インストール環境の一部としてインストールしたときはこれを構成する必要があります。

31 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の新規プロファイル作成』

新規プロファイルを作成し、そこにコンテンツ統合サーバーをデプロイすることができます。コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server の開始と停止には、プロファイル名を使用します。

サブスクリプション・イベント・サービスの構成

『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用のコンテンツ統合サーバーの構成』

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール後、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 でコンテンツ統合サーバーを使用するためにアプリケーションを構成する必要があります。

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用のコンテンツ統合サーバーの構成

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール後、WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 でコンテンツ統合サーバーを使用するためにアプリケーションを構成する必要があります。

手順

WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーションを構成するには以下のようにします。

1. コンテンツ統合サーバー構成スクリプトを更新します。Windows の場合、*ICES_HOME*\bin\config.bat ファイルを更新します。UNIX の場合、*ICES_HOME*/bin/config.sh スクリプトを更新します。
 - a. 構成スクリプトをバックアップします。
 - b. WAS_HOME 環境変数を WebSphere Application Server インストール・ディレクトリー (例えば、C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer など) に設定します。

- c. JNDI_CLIENT_PROVIDER 変数を、デプロイメント処理中に記録した BOOTSTRAP_ADDRESS サーバーのポート番号が使用されるように編集します。このプロパティの値の例は、次のとおりです。

`iiop://localhost:2810`

2. 手動でコンテンツ統合サーバーをデプロイしている場合は、デプロイされた `vbr_access_services.jar` と `vbr_view_services.jar` ファイルを `IICE_HOME/lib` ディレクトリーにコピーします。これらのファイルは、フォルダー

`WAS_HOME/AppServer/profiles/PROFILE_NAME/installedApps/node/VeniceBridge.ear`

にあります。ここで、`node` は、コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server のノードです。

3. クライアント JNDI プロパティを更新します。
 - a. WebSphere Information Integrator Content Edition 管理ツールを開始します。WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーション・サーバーは、管理ツールを使用する前に開始されている必要があります。
 - b. 「編集」 → 「オプション」 メニューをオープンします。
 - c. WebSphere オプションが選択されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
 - d. `java.naming.provider.url` プロパティで使用するよう設定されているポート番号を確認します。ポート番号が、デプロイメント処理中に記録した `IICEServer` ネーム・サーバーのポート (例えば、2810 など) と同一であることを確認します。このプロパティの値の例は、`iiop://localhost:2810` です。
 - e. プロパティを確認したら「OK」をクリックし、その後で、再度「OK」をクリックして「オプション」ダイアログをクローズします。
 - f. アクセス・サービス・エントリーで JNDI 検索を実行して、構成が正しいことを確認してください。

関連タスク

38 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして手動でデプロイできます。

WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする

WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをアプリケーションとしてデプロイできます。

始める前に

WebSphere Information Integrator Content Edition と WebSphere Application Server は、同一コンピューター上にインストールする必要があります。

手順

コンテンツ統合サーバーをデプロイするには以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。
2. コンテンツ統合サーバーのデプロイ先のアプリケーション・サーバー・インスタンスを作成します。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」を選択します。
 - b. 「新規」ボタンをクリックします。
 - c. この新規サーバーの名前を入力します。例えば、*IICEServer* を入力します。
 - d. 「固有 HTTP ポートの生成」ボックスが選択されていることを確認します。
 - e. 「次へ」をクリックします。
 - f. 新規アプリケーション・サーバーを確認するプロンプトが表示されたら、「完了」をクリックします。
 - g. 変更を保存するには、ページの上部にある「保存」をクリックします。
3. 新規サーバー用のポート情報を以下のように記録します。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → 「*IICEServer*」 → 「Web コンテナ」 → 「HTTP トランスポート」を選択します。
 - b. 以降のステップで使用するために、ここで HTTP トランスポート用のポート番号を記録します。4 つの異なるポートに定義された HTTP トランスポートがあります。2 つは標準トランスポートで、2 つは SSL 対応トランスポートです。
 - c. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → 「*IICEServer*」 → 「エンドポイント」 → 「BOOTSTRAP_ADDRESS」を選択します。
 - d. 以降のステップで使用するために、ここでポート・フィールドの値を記録します。例えば、2810 など、*IICEServer* アプリケーション・サーバーのネーム・サービスが実行されているポートが表示されます。
4. デフォルトの仮想ホスト別名を、新規 HTTP トランスポートが組み込まれるように更新します。
 - a. 「環境」 → 「仮想ホスト」 → *default_host* → 「ホスト別名」を選択します。
 - b. 前のステップで記録した 4 つの HTTP トランスポートのそれぞれについて、「新規」をクリックし、そのトランスポートのホスト別名を定義します。
 - c. それぞれのトランスポートで使用するホスト名 * を入力します。

```
New Alias 1
Host Name: *
Port: 9081
```

```
New Alias 2
Host Name: *
Port: 9091
```

```
New Alias 3
Host Name: *
Port: 9044
```

```
New Alias 4
Host Name: *
Port: 9044
```

- d. 各別名に「OK」をクリックします。
- e. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
5. コンテンツ統合サーバーの従属関係用の共用ライブラリーを作成します。
 - a. 「環境」 → 「共用ライブラリー」を選択します。
 - b. 「新規」をクリックします。
 - c. 新規共用ライブラリーに名前 *iceDependencies* を付けます。
 - d. クラス・パスを、*ICE_HOME/datastore/datastore.jar* が組み込まれるように設定します。
 - e. 「OK」をクリックします。
 - f. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
6. 新規共用ライブラリーを *ICEServer* アプリケーション・サーバーに割り当てます。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → *ICEServer* → 「クラス・ローダー」を選択します。
 - b. 「新規」をクリックします。
 - c. クラス・ローダー・モードが *PARENT_FIRST* に設定されるので、「OK」をクリックします。
 - d. 作成したクラス・ローダーを選択します。
 - e. 「ライブラリー」をクリックします。
 - f. 「追加」をクリックします。
 - g. 作成した *iceDependencies* ライブラリーを選択し、「OK」をクリックします。
 - h. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
7. コンテンツ統合サーバーのホーム・ディレクトリーをアプリケーション・サーバーの Java 仮想マシン・プロパティー・セットに追加します。
 - a. 「サーバー」 → 「アプリケーション・サーバー」 → *ICEServer* → 「プロセス定義」 → 「Java 仮想マシン」 → 「カスタム・プロパティー」を選択します。
 - b. 「新規」をクリックします。
 - c. 以下のプロパティーを入力します。
 - 名前: *vbr.home*
 - 値: *ICE_HOME*
 - 説明: コンテンツ統合サーバーのインストール・ルート・ディレクトリー
 - d. 「OK」をクリックします。
 - e. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
8. コンテンツ統合サーバーのアプリケーションを *ICEServer* サーバーにインストールします。
 - a. 「アプリケーション」 → 「新規アプリケーションのインストール」を選択します。
 - b. 管理コンソールをローカルで実行している場合は、「ローカル・パス」オプションを選択して *ICE_HOME* ディレクトリーにある *VeniceBridge.ear* ファイルに移動します。

- c. 「次へ」をクリックします。
- d. アプリケーションのインストール準備のステップで、「次へ」をクリックします。
- e. セキュリティ警告は無視して、「Continue (続行)」をクリックします。
- f. 新規アプリケーションを以下のようにしてインストールします。
 - 1) インストールを行うためのオプションの提供: 「リソース用の Mbeans の作成」チェック・ボックスをクリアして、「次へ」をクリックします。
 - 2) EJB デプロイを行うためのオプションの提供: 「次へ」をクリックします。
 - 3) メッセージング Bean のリスナー・ポートを提供: WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール時にサブスクリプション・イベント・サービスがインストールされた場合に、このステップが表示されます。「次へ」をクリックします。
 - 4) Bean の JNDI 名を提供: 「次へ」をクリックします。
 - 5) Web モジュールの仮想ホストをマップ: 「次へ」をクリックします。
 - 6) モジュールをアプリケーション・サーバーにマップ: 「クラスターとサーバー」リストのオプションを選択し、「モジュール」リストのすべてのモジュールを選択してから、「適用」をクリックします。IICEServer アプリケーション・サーバーに割り当てられているすべてのモジュールがそのページに再ロードされます。「次へ」をクリックします。
 - 7) すべての無保護 1.x メソッドが正しい保護レベルを持っていることを確認: 「次へ」をクリックします。
 - 8) 要約: 「完了」をクリックします。アプリケーションがデプロイを開始します。このプロセスには、ご使用のハードウェアやコンテンツ統合サーバーのインストール時に選択したコネクタ数により、非常に長い時間がかかる場合があります。
- g. 変更を保存するには、「マスター構成に保管」をクリックします。
- 9. サブスクリプション・イベント・サービスをインストールした場合、WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用にサブスクリプション・イベント・サービスを構成します。
- 10. FastObjects サーバーを開始します。UNIX でコンテンツ統合サーバーを実行している場合は、`IICE_HOME/bin/rdsservice.sh` スクリプトを実行してサーバーを開始します。Windows でコンテンツ統合サーバーを実行していて、サービスが開始されていない場合は、「コントロール パネル」→「管理ツール」を選択して、データ・ストア・サービスを開始します。
- 11. ご使用の環境をセットアップします。Windows では、コマンド・ウィンドウをオープンし、`IICE_HOME\bin\config.bat` ファイルを実行します。UNIX では、シェルをオープンし、`IICE_HOME/bin/config.sh` スクリプトを実行します。
- 12. アプリケーション・サーバーを停止してから再始動します。
- 13. WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーションを WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用に構成するための手順を実行します。

関連タスク

『WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のコンテンツ統合サーバーのアプリケーションの構成』

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール後、 WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをデプロイするためにアプリケーションを構成する必要があります。

29 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』

WebSphere Application Server 上にコンテンツ統合サーバーを手動でデプロイするには、管理コンソールを使用します。

WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のコンテンツ統合サーバーのアプリケーションの構成

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール後、 WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをデプロイするためにアプリケーションを構成する必要があります。

手順

コンテンツ統合サーバーのアプリケーションを構成するには以下のようにします。

1. コンテンツ統合サーバー構成スクリプトを更新します。Windows の場合、`IICE_HOME¥bin¥config.bat` ファイルを更新します。UNIX の場合、`IICE_HOME/bin/config.sh` スクリプトを更新します。
 - a. 構成スクリプトをバックアップします。
 - b. `WAS_HOME` 環境変数を WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリー (例えば、`C:¥WebSphere¥AppServer` など) に設定します。
 - c. サブスクリプション・イベント・サービスを使用する場合は、`MQ_HOME` 環境変数を WebSphere MQ インストール・ディレクトリーに設定します。
 - d. `JNDI_CLIENT_PROVIDER` 環境変数をコンテンツ統合サーバーをデプロイしたときに記録した `IICEServer` サーバーのポート番号に設定します。このプロパティの値の例は、次のとおりです。

```
iiop://localhost:2810
```
2. クライアント JNDI プロパティを更新します。
 - a. コンテンツ統合サーバーの管理ツールを開始します。
 - b. 「編集」 → 「オプション」 を選択します。
 - c. 「WebSphere」を選択してから、「プロパティ」をクリックします。
 - d. `java.naming.provider.url` プロパティで使用するよう設定されているポート番号を確認します。このプロパティは、`IICEServer` ブートストラップ・ポート番号を使用して設定します。この番号は、デプロイメントの時に WebSphere Application Server 管理コンソールの `BOOTSTRAP_ADDRESS` から記録したものです。この例の中のポートを記録した番号と置換してください。このプロパティの値の例は、`iiop://localhost:2810` です。
 - e. プロパティを確認したら「OK」をクリックし、その後で、再度「OK」をクリックして「オプション」ウィンドウをクローズします。
 - f. アクセス・サービス・エントリーで JNDI 検索を実行して、構成が正しいことを確認してください。

3. デプロイされた `vbr_access_services.jar` と `vbr_view_services.jar` ファイルを `IICE_HOME/lib` ディレクトリー にコピーします。これらのファイルは、`WAS_HOME/AppServer/installedApps/node/VeniceBridge.ear` フォルダーにあります。ここで、`node` は、コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere のノードです。

関連タスク

43 ページの『WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをアプリケーションとしてデプロイできます。

『WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成』

コンテンツ統合サーバーの一部としてサブスクリプション・イベント・サービスをインストールした後、WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをデプロイするためにサブスクリプション・イベント・サービスを構成する必要があります。

WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成

コンテンツ統合サーバーの一部としてサブスクリプション・イベント・サービスをインストールした後、WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをデプロイするためにサブスクリプション・イベント・サービスを構成する必要があります。

始める前に

サブスクリプション・イベント・サービスがコンテンツ統合サーバーと共にインストールされていることを確認します。サブスクリプション・イベント・サービスを使用するには、WebSphere Application Server のインストール時に、組み込みメッセージングをインストールする必要があります。

UNIX に WebSphere Application Server 用の組み込みメッセージングをインストールする場合には、特定のグループとユーザーが必要です。

手順

サブスクリプション・イベント・サービスを構成するには、以下のようになります。

1. JMS 接続ファクトリーを作成します。
 - a. Resources¥WebSphere JMS Provider にナビゲートします。
 - b. 「サーバー」フィールドに `IICEServer` を入力し、「適用」をクリックします。
 - c. 「WebSphere キュー接続ファクトリー」をクリックします。
 - d. 「新規」をクリックします。
 - e. 以下のプロパティを入力します。

名前 `VBRCConnectionFactory`

JNDI 名

VBRConnectionFactory

Enable XA (XA 使用可能)

チェックなし

- f. 「適用」をクリックします。
 - g. スクロールダウンして、「接続プール」をクリックします。
 - h. 「最大接続数」に、25 を指定します。最大接続数は、必要に応じて変わります。
 - i. 「OK」をクリックします。
 - j. 変更を保存するには、ページの上にある「保存」をクリックします。
2. JMS キューを作成します。
- a. Resources¥WebSphere JMS Provider にナビゲートします。
 - b. 「サーバー」フィールドに IICEServer を入力し、「適用」をクリックします。
 - c. 「WebSphere キュー宛先」をクリックします。
 - d. 「名前」と「JNDI 名」フィールドを更新して、以下の JMS キューを作成します。その他のフィールドはすべて、デフォルト値を使用します。
 - 名前: VBRSubscriptionGroupProcessorQueue

JNDI 名: queue/VBRSubscriptionGroupProcessorQueue
 - 名前: VBRContentMonitorQueue

JNDI 名: queue/VBRContentMonitorQueue
 - 名前: VBREventFilterQueue

JNDI 名: queue/VBREventFilterQueue
 - 名前: VBREventHandlerQueue

JNDI 名: queue/VBREventHandlerQueue
 - 名前: VBRStatisticsQueue

JNDI 名: queue/VBRStatisticsQueue
 - 名前: VBRSubscriptionServicesDLQ

JNDI 名: queue/VBRSubscriptionServicesDLQ
 - 名前: VBRMainDLQ

JNDI 名: queue/VBRMainDLQ
 - e. Servers¥Application Servers¥IICEServer¥Server Components¥JMS Servers にナビゲートします。
 - f. JMS キュー名 (JNDI 名ではない) をすべてキュー名リストに追加します。例えば、以下のようになります。
 - VBRSubscriptionGroupProcessorQueue
 - VBRContentMonitorQueue
 - VBREventFilterQueue

- VBREventHandlerQueue
 - VBRStatisticsQueue
 - VBRSubscriptionServicesDLQ
 - VBRMainDLQ
- g. 初期状態を **Started** に設定します。
- h. 「**OK**」をクリックします。
3. JMS メッセージ・リスナー・サービスを構成します。
- a. Servers¥Application Servers¥IICEServer¥Message Listener Service にナビゲートします。
- b. 「リスナー・ポート」をクリックします。
- c. 「名前」と「宛先 JNDI 名」フィールドに入力して以下のリスナー・ポートを作成します。
- 名前: VBRSubscriptionGroupProcessorListener
宛先 JNDI 名: queue/VBRSubscriptionGroupProcessorQueue
 - 名前: VBRContentMonitorListener
宛先 JNDI 名: queue/VBRContentMonitorQueue
 - 名前: VBREventFilterListener
宛先 JNDI 名: queue/VBREventFilterQueue
 - 名前: VBREventHandlerListener
宛先 JNDI 名: queue/VBREventHandlerQueue
 - 名前: VBRStatisticsProcessorListener
宛先 JNDI 名: queue/VBRStatisticsQueue
- 各リスナー・ポートの以下のプロパティは、デフォルトのデプロイメントのプロパティと同じです。環境と予想される負荷に応じて、最大セッションと最大メッセージの値は変わります。
- 接続ファクトリー JNDI 名: VBRConnectionFactory
 - 最大セッション: 5
 - 最大再試行: 1
 - 最大メッセージ: 1
- d. 変更を保存するには、ページの上にある「**保存**」をクリックします。

関連概念

JMS キューの概要

関連タスク

47 ページの『WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用のコンテンツ統合サーバーのアプリケーションの構成』

WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール後、WebSphere Application Server にコンテンツ統合サーバーをデプロイするためにアプリケーションを構成する必要があります。

第 9 章 ベンダー提供のアプリケーション・サーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイする

コンテンツ統合サーバーは WebSphere Application Server バージョン 6.0.1、WebSphere Application Server バージョン 5.1.1、および WebLogic Application Server バージョン 8.1 (SP4) にデプロイできます。

このタスクについて

コンテンツ統合サーバーの J2EE コンポーネントは、単一の EAR ファイルとしてパッケージされており、J2EE 1.3 (あるいはそれ以降) の仕様をサポートする任意のアプリケーション・サーバーにデプロイすることができます。

手順

ベンダー提供のアプリケーション・サーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイするには、以下のようにします。

1. WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールします。
2. すでに別のアプリケーション・サーバーでコンテンツ統合サーバーを適切にデプロイし構成している場合、アプリケーション・サーバーの設定を上書きすることがないように、コンテンツ統合サーバー用の `config.xml` 構成ファイルをバックアップします。 `config.xml` 構成ファイルを変更するたびにアプリケーション・サーバーを停止して再始動するのであれば、構成を交互に使用することもできます。
3. アプリケーション・サーバー用に JVM システム・プロパティ `vbr.home` を定義してコンテンツ統合サーバーのインストール・ディレクトリを指定します。例えば、次のようにします。

```
-Dvbr.home=C:/Program Files/IBM/WebSphereIICE
```

システム・プロパティを定義するために、アプリケーション・サーバーの開始スクリプトやバッチ・ファイルを変更する必要がある場合があります。

4. `IICE_HOME/datastore` ディレクトリをアプリケーション・サーバー JVM を開始するシェルのパス環境変数に追加します。 Windows の場合は、 `PATH` 環境変数を、 AIX の場合は、 `LIBPATH` を、そして、 Solaris と Linux の場合は、 `LD_LIBRARY_PATH` を使用します。
5. ご使用のアプリケーション・サーバーの文書に従って、EAR ファイル `IICE_HOME/VeniceBridge.ear` をデプロイしてください。
6. コンテンツ統合サーバーの開始スクリプト、 `config.bat` (Windows) または `config.sh` (UNIX) を、アプリケーション・サーバー・クライアントの JAR ファイルと正しい JNDI 検索パラメーターが組み込まれるように編集します。 この開始スクリプトは、 `IICE_HOME/bin` ディレクトリにあります。
7. WebSphere Information Integrator Content Edition 管理ツールを開始して、デフォルト・アプリケーション・サーバーをご使用のアプリケーション・サーバーに変更します。

関連概念

67 ページの『第 15 章 Java クライアントのデプロイメント』
コンテンツ統合サーバーには、Java API を使用して、コンテンツ統合サーバー
の機能にアクセスする方法を示す多くのサンプル・プログラムが含まれていま
す。

関連タスク

17 ページの『第 5 章 シングル・サーバーへの WebSphere Information
Integrator Content Edition のインストール』

シングル・サーバーのインストールは、最少の手順で済み、すべての主要な
WebSphere Information Integrator Content Edition 機能へのアクセスが可能になり
ます。

53 ページの『第 10 章 WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン
8.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

BEA WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 SP4 は、エンタ
ープライズ Bean と EAR ファイルからの Web アプリケーションの両方をデプ
ロイできます。コンテンツ統合サーバーは、WebLogic アプリケーション・サー
バー用のデフォルト・デプロイメント記述子をエンタープライズ Bean JAR フ
ァイルに組み込みます。

第 10 章 WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする

BEA WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 SP4 は、エンタープライズ Bean と EAR ファイルからの Web アプリケーションの両方をデプロイできます。コンテンツ統合サーバーは、WebLogic アプリケーション・サーバー用のデフォルト・デプロイメント記述子をエンタープライズ Bean JAR ファイルに組み込みます。

このタスクについて

以下の規則を使用します。

IICE_HOME

コンテンツ統合サーバーの基本インストール・ディレクトリ。

WL_HOME

WebLogic 8.1 アプリケーション・サーバーのインストール用基本ディレクトリ。

WL_DOMAIN

コンテンツ統合サーバーをデプロイしているドメイン名。デフォルトのインストール時に、WebLogic は、*Examples* と呼ばれるドメインを作成します。

手順

WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 に、コンテンツ統合サーバーをデプロイするには以下のようにします。

1. コンテンツ統合サーバーをインストールします。
2. コンテンツ統合サーバーの構成ファイル *IICE_HOME*\config.xml をバックアップします。
3. コンテンツ統合サーバーを新規の WebLogic ドメインにインストールします。新規ドメインを作成するために実行する構成スクリプト (UNIX) および構成ファイル (Windows)については BEA の文書を参照してください。
4. *WL_DOMAIN*/user_projects/domains/domainname ディレクトリにある WebLogic 開始スクリプトを編集します。
 - a. JAVA_OPTIONS パラメーターをディレクティブ "-Dvbr.home=*IICE_HOME*" が組み込まれるように設定します。
 - b. パスにデータ・ストアを追加します。
 - Windows の場合:
PATH=*IICE_HOME*\datastore;%PATH%
 - AIX の場合:
LIBPATH=*IICE_HOME*/datastore:\$LIBPATH
 - Solaris の場合:
LD_LIBRARY_PATH=*IICE_HOME*/datastore:\$LD_LIBRARY_PATH

- Linux の場合:

```
LD_LIBRARY_PATH=IICE_HOME/datastore:$LD_LIBRARY_PATH
```

- IICE_HOME*/datastore/datastore.jar を CLASSPATH 変数の最後に追加します。 WebLogic 開始スクリプトの例を一部、以下に示します。

```
...
@REM SET content integration server OPTIONS
set VBR_HOME=C:%IICE
set JAVA_OPTIONS=-Dvbr.home=%VBR_HOME%
set PATH=%PATH%;%VBR_HOME%\datastore
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%VBR_HOME%\datastore\datastore.jar
...
```

- データ・ストア・サービスが実行中であることを確認します。コンテンツ統合サーバーが Windows 環境にインストールされている場合、「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」と進み、データ・ストア・サービスが実行中であることを確認します。UNIX 環境では、*IICE_HOME*/bin に進み、rdsservice.sh ファイルを実行してデータ・ストア・サービスを開始します。
- 新規ドメイン・ディレクトリーの WebLogic 開始スクリプトを実行して、WebLogic アプリケーション・サーバーを開始します。
- WebLogic 管理コンソールをオープンします。
- サブスクリプション・イベント・サービスがインストールされている場合、WebLogic 用のサブスクリプション・イベント・サービスを構成します。
- サービス・モニターとサブスクリプション・イベント・サービス・アプリケーションへアクセスできるように WebLogic セキュリティーを構成します。
- 左側のペインで、「デプロイメント」 → 「アプリケーション」に進み、それから「新規アプリケーションをデプロイする」をクリックします。
- ファイル・システム *IICE_HOME*\VeniceBridge.ear にインストールされた EAR ファイルを見つけて、「選択」をクリックします。
- アプリケーション名に IIContentEd を入力して、「デプロイ」をクリックします。ウィンドウが、数回リフレッシュされて、すべての JAR および WAR ファイルが正常にデプロイされます。
- IICE_HOME*/bin ディレクトリーにある config.sh スクリプト (UNIX) または config.bat ファイル (Windows) を以下のように編集します。
 - 環境変数 JNDI_CLIENT_FACTORY と JNDI_CLIENT_PROVIDER が、WebLogic エンタープライズ Bean 検索用の正しい JNDI パラメーターを参照するように編集します。
 - 環境変数 EJB_CLIENT_CLASSPATH が *WL_HOME*/weblogic81/server/lib ディレクトリーにある WebLogic 8.1 クライアント JAR ファイルと weblogic.jar ファイルを参照するように設定します。
 - 環境変数 JAVA_HOME が WebLogic バージョン 8.1 SP4 アプリケーション・サーバーに組み込まれている JVM を参照するように設定します。
- 管理ツールを実行して、デフォルト・アプリケーション・サーバーを WebLogic に変更します。

関連タスク

51 ページの『第 9 章 ベンダー提供のアプリケーション・サーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

コンテンツ統合サーバーは WebSphere Application Server バージョン 6.0.1、WebSphere Application Server バージョン 5.1.1、および WebLogic Application Server バージョン 8.1 (SP4) にデプロイできます。

『WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成』

サブスクリプション・イベント・サービスをインストールしていて、コンテンツ統合サーバーを WebLogic アプリケーション・サーバーにデプロイしている場合、サブスクリプション・イベント・サービスを構成する必要があります。

管理ツールの開始

WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 用のサブスクリプション・イベント・サービスの構成

サブスクリプション・イベント・サービスをインストールしていて、コンテンツ統合サーバーを WebLogic アプリケーション・サーバーにデプロイしている場合、サブスクリプション・イベント・サービスを構成する必要があります。

始める前に

ご使用の WebLogic インスタンスに JMS サーバーがあるかどうかを確認するには、WebLogic 管理コンソールを使用して、Services¥JMS¥Servers を開きます。JMS サーバーが表示されている場合は、ステップ 1 を無視して、ステップ 2 に進み、JMS 接続ファクトリーを構成します。

手順

WebLogic 用のサブスクリプション・イベント・サービスを構成するには、以下のようになります。

1. 新規 JMS サーバーを作成します。ご使用の WebLogic のインストールには、おそらくすでに構成済みの JMS サーバーがあります。
 - a. Services¥JMS にナビゲートします。
 - b. 「サーバー」を選択してから、「新規 JMS サーバーの構成」をクリックします。
 - c. JMS サーバー名を指定して、「作成」をクリックします。
 - d. 「ターゲット」タブをクリックし、ドロップダウン・メニューからサーバーを選択します。
 - e. 「適用」をクリックします。
2. 新規 JMS 接続ファクトリーを作成します。
 - a. Services¥JMS¥Connection Factories にナビゲートします。
 - b. 「新規 JMS 接続ファクトリーの構成」をクリックします。
 - c. 以下のプロパティを指定します。

名前 VBRConnectionFactory

JNDI 名

VBRConnectionFactory

他の JMS 接続ファクトリーのプロパティは、デフォルト値のままにします。

- d. 「作成」をクリックします。
 - e. 「ターゲット」タブをクリックして、「選択可能」リストから適切なサーバーを選択し、それを「選択済み」リストに移動します。
 - f. 「適用」をクリックします。
3. JMS キューを作成します。
- a. Services¥JMS¥Servers¥Your JMS Server¥Destinations にナビゲートします。
 - b. 「名前」および「JNDI 名」フィールドに入力して以下の JMS キューを作成します。他のフィールドはすべて、デフォルト値を使用します。

名前 VBRSubscriptionGroupProcessorQueue

JNDI 名

queue/VBRSubscriptionGroupProcessorQueue

名前 VBRContentMonitorQueue

JNDI 名

queue/VBRContentMonitorQueue

名前 VBREventFilterQueue

JNDI 名

queue/VBREventFilterQueue

名前 VBREventHandlerQueue

JNDI 名

queue/VBREventHandlerQueue

名前 VBRStatisticsQueue

JNDI 名

queue/VBRStatisticsQueue

名前 VBRSubscriptionServicesDLQ

JNDI 名

queue/VBRSubscriptionServicesDLQ

名前 VBRMainDLQ

JNDI 名

queue/VBRMainDLQ

- c. それぞれのキューの詳細をオープンし、「Redelivery (再送)」タブをクリックします。再送限度を 1 に変更し、エラー宛先を VBRMainDLQ に変更します。デフォルトの再送限度と VBRMainDLQ のエラー宛先設定を使用します。

関連タスク

53 ページの『第 10 章 WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 にコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

BEA WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1 SP4 は、エンタープライズ Bean と EAR ファイルからの Web アプリケーションの両方をデプ

ロイできます。コンテンツ統合サーバーは、WebLogic アプリケーション・サーバー用のデフォルト・デプロイメント記述子をエンタープライズ Bean JAR ファイルに組み込みます。

第 11 章 WebLogic アプリケーション・サーバーのセキュリティの構成

サービス・モニター・アプリケーション、および、サブスクリプション・イベント・サービス管理アプリケーションは、どちらも基本 HTTP 認証を使用するため、これらのアプリケーションにアクセスするには、WebLogic ユーザーを作成する必要があります。

このタスクについて

サービス・モニター・アプリケーションとサブスクリプション・イベント・サービス管理アプリケーションの両方で同じユーザー名とパスワードの組み合わせを使用する場合、次の手順を一度実行してください。

手順

WebLogic ユーザーを作成するには、次のようにします。

1. Security¥Realms¥realm_name¥Users にナビゲートします。
2. 「新規ユーザーの構成」をクリックします。
3. ユーザー名およびパスワードに「Administrator」を入力します。アプリケーションごとに異なるユーザー名とパスワードの組み合わせを設定する場合は、各 Web アプリケーションの WEB-INF ディレクトリーにある weblogic.xml 記述子の principal-name プロパティを編集してください。
4. 説明として「コンテンツ統合サーバーの管理者」と入力します。
5. 「適用」をクリックします。

第 12 章 Remote Method Invocation (RMI) プロキシ・コネクター・サーバーの開始

Remote Method Invocation (RMI) プロキシ・コネクターを使用して、同一マシン上あるいは別サーバー上の別仮想マシンで実コネクターをホストしている RMI サーバーに対してコネクター要求を送信する場合、RMI プロキシ・コネクター・サーバーを開始します。

始める前に

RMI プロキシ・コネクター・サーバーを開始する前に、必要なりポジトリ・ライブラリーがすべて *IICE_HOME/lib* にコピーされていることを確認してください。それぞれのコネクターに必要なりポジトリ・ライブラリーは、そのコネクターの文書にリストされています。

手順

RMI プロキシ・コネクター・サーバーを開始するには以下のようにします。

- Windows では、バッチ・ファイル *IICE_HOME\bin\RMIBridge.bat* を使用して RMI プロキシ・コネクター・サーバーを開始します。
- UNIX では、シェル・スクリプト *IICE_HOME/bin/RMIbridge.sh* を使用して RMI プロキシ・コネクターを開始します。

第 13 章 リモート・コンピューターを WebSphere Application Server にホストされている WebSphere Information Integrator Content Edition に対するクライアントとして構成する

WebSphere Application Server は、WebSphere Application Server でホストされているアプリケーションに接続する必要のあるリモート・コンピューター用のクライアント・インストール・プログラムを提供しています。

始める前に

1. ターゲット・サーバーでコンテンツ統合サーバーを開始します。
2. WebSphere Application Client をクライアント・マシンにインストールします。
WebSphere Application Client のバージョンは、コンテンツ統合サーバーがデプロイされている WebSphere Application Server のバージョンと一致している必要があります。
3. クライアント・コンピューターでコンテンツ統合サーバーのフルインストールを実行します。

手順

リモート・コンピューターを WebSphere Application Server にホストされているコンテンツ統合サーバーに対するクライアントとして構成するには、以下のようになります。

1. 以下のファイルを WebSphere Information Integrator Content Edition インストール済み環境からクライアント・コンピューターの `IICE_CLIENT_HOME\lib` ディレクトリーにコピーします。

WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 の場合

```
WAS_SERVER_HOME\installedApps\<node>\
VeniceBridge.ear\vbr_access_services.jar
```

```
WAS_SERVER_HOME\installedApps\<node>\
VeniceBridge.ear\vbr_view_services.jar
```

コンテンツ統合サーバーの自動デプロイメント後の WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 の場合

```
WAS_HOME/profiles/IICEServer/installedApps/
IICEServer/VeniceBridge.ear/vbr_access_services.jar
```

```
WAS_HOME/profiles/IICEServer/installedApps/
IICEServer/VeniceBridge.ear/vbr_view_services.jar
```

2. コンテンツ統合サーバーのクライアント構成スクリプトを更新します。
Windows では、このファイルは `IICE_CLIENT_HOME\bin\config.bat` です。
UNIX では、このファイルは `IICE_CLIENT_HOME/bin/config.sh` です。
 - a. 構成スクリプトをバックアップします。
 - b. `WAS_HOME` 変数を編集して、これを WebSphere Application Client インストール・ディレクトリーに設定します。
 - c. `MQ_HOME` 変数を編集して、これを WebSphere Application Client MQ Java ディレクトリーに設定します。このディレクトリーは、通常、アプリケーション

ョン・クライアントのインストール・ディレクトリーの外部にあります。例えば、Windows 上の WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 の場合、デフォルト・ディレクトリーは Program Files¥IBM¥WebSphere MQ¥Java です。Windows 上の WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 の場合、デフォルト・ディレクトリーは WAS_HOME¥lib¥WMQ¥java です。

- d. JNDI_CLIENT_PROVIDER 変数を編集して、これがコンテンツ統合サーバーの名前とサーバー・ポート `iiop://my_server:2810` を必ず使用するようになります。
3. クライアント JNDI プロパティを更新します。
 - a. 管理ツールを開始します。
 - b. 「編集」 → 「オプション」をクリックします。
 - c. WebSphere オプションが選択されていることを確認してから、「プロパティ」をクリックします。
 - d. `java.naming.provider.url` プロパティで使用するよう設定されているポート番号を確認します。これが、デプロイメント処理中に記録した、コンテンツ統合サーバーの名前とポート (例えば、2810 など) と同一であることを確認します。このプロパティの値の例は、`iiop://my_server:2810`、です。
 - e. プロパティを確認したら「OK」をクリックし、再度「OK」をクリックして「オプション」ウィンドウをクローズします。
 4. クライアントの構成をテストします。
 - a. コマンド・プロンプトをオープンします。
 - b. Windows の場合、`run_sample swing.RepoBrowser` ファイルを実行します。UNIX の場合、`./run_sample.sh swing.RepoBrowser` スクリプトを実行します。RepoBrowser サンプルは、コンテンツ統合サーバー上に構成されているリポジトリーのセットを表示します。

第 14 章 Web アプリケーションを展開形式でデプロイする

コンテンツ統合サーバーの検索形式および表示画面形式の機能を使用するには、Web クライアントが展開形式でデプロイされている必要があります。Web クライアントが展開形式でデプロイされていない場合、カスタム形式は使用可能ではありません。

このタスクについて

Web クライアントは *IICE_HOME* ディレクトリーの *VeniceBridge.ear* ファイルに組み込まれています。Web クライアントは、*IICE_HOME/war/webclient.war* ファイルにも配置されています。

手順

Web アプリケーションを展開形式でデプロイするために必要なステップは、アプリケーション・サーバーのタイプによって異なります。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server の EAR ファイルをデプロイする場合は、「AppDeployment オプション」ページで「分散アプリケーション」オプションが選択されていることを確認してください。このオプションは、アプリケーションを展開形式でデプロイし、カスタム検索形式および表示画面形式が機能するようにします。WebSphere Application Server は、デフォルトで「分散アプリケーション」オプションを使用します。

WebLogic アプリケーション・サーバー

1. *webclient.war* ファイルをディレクトリーに解凍します。
IICE_HOME/webclientx が、アーカイブの適切な解凍先です。新規ディレクトリーの場合、少し変更をする必要があります。
2. *WEB-INF/wc-config.xml* ファイルを編集のためにオープンします。
3. *vbr.relate.datastore.url* プロパティーを検索します。
4. このプロパティー値を *FastObjects://localhost/relate_store2* に変更します。
この変更により、Web アプリケーションの他のインスタスとの競合がなくなります。
5. 2 番目のデータ・ストアを作成し、*relate_store2* が機能するようにします。

WebSphere Application Server と WebLogic アプリケーション・サーバーの両方において、Web クライアントが、他のコンテンツ統合サーバー・コンポーネントとは異なるアプリケーション・サーバー・インスタンスにデプロイされている場合は、*WEB-INF/web.xml* ファイルを変更して、適切な JNDI プロパティーが使用されるようにし、サービスにアクセスする外部接続を作成する必要があります。

関連概念

データ・ストアでの作業

関連タスク

データ・ストアの作成

第 15 章 Java クライアントのデプロイメント

コンテンツ統合サーバーには、Java API を使用して、コンテンツ統合サーバーの機能にアクセスする方法を示す多くのサンプル・プログラムが含まれています。

コンテンツ統合サーバーをインストールすると、開始スクリプト `run_sample.bat` (Windows) または `run_sample.sh` (UNIX) が `IICE_HOME/bin` ディレクトリーに作成されます。これは、サンプル・アプリケーションの実行に必要なすべてのクラス・パスと構成パラメーターを設定します。インストール時にインストール・プログラムによってコンテンツ統合サーバーが WebSphere 6.0.1 にデプロイされるように選択した場合、スクリプトによって必要なライブラリーがすべて作成されます。他のアプリケーション・サーバーの場合は、サンプル・アプリケーションを実行する前に、エンタープライズ Bean クライアント・ライブラリーに必要な JAR ファイルを `IICE_HOME/lib` ディレクトリーに追加する必要があります。

`run_sample` スクリプト・ファイルを更新して、コマンド行のサンプルを直接モードで実行できるようにすることも可能です。直接モードでサンプルを実行するには、システム・プロパティー `vbr.as.operationMode` の値を `direct` に設定します。このシステム・プロパティーのデフォルト値は、`server` です。

次の例は、Java API を使用してリポジトリーにログオンする方法を示します。

```
run_sample commandline.RepoTest MyRepository MyUserid  
MyPassword
```

`run_sample` スクリプトは、`config.bat` ファイル (Windows) または `config.sh` ファイル (UNIX) が設定するクラス・パスを使用します。Java クライアントは、アプリケーション・サーバーに接続し、アクセス・サービス・エンタープライズ Bean のハンドルを取得するために必要なプロパティーを設定する必要があります。以下の表は、アプリケーション・サーバーに接続するために必要なプロパティーを示しています。

表 2. アプリケーション・サーバーの接続に必要なプロパティー

プロパティー	説明
<code>java.naming.factory.initial</code>	エンタープライズ Bean ハンドルを作成するために使用される、アプリケーション・サーバー固有のクラスの名前。デフォルト値: <code>com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory</code>
<code>java.naming.provider.url</code>	エンタープライズ Bean ハンドルを要求するために使用される、アプリケーション・サーバー固有のネーミング・サービスの URL。デフォルト値: <code>iiop://localhost:2810</code>

別々のコンピューターに Java クライアントをデプロイするには、Java ネーミング・プロバイダーの URL を編集し、`localhost` を実際のホスト名に置き換える必要があります。

ベンダー提供のサーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイする場合、`config.bat` ファイル (Windows) または `config.sh` ファイル (UNIX) で、アプリケーション・サーバーに適切なネーミング・ファクトリーとプロバイダーの URL が使用されるよ

うにこのファイルを編集する必要があります。以下の表は、サポートされているアプリケーション・サーバーに対するネーミング・ファクトリーの値とプロバイダー URL の値をまとめています。

表 3. アプリケーション・サーバーに対するネーミング・ファクトリー値とプロバイダー URL 値

アプリケーション・サーバー	java.naming.factory.initial	java.naming.provider.url
WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 および 6.0.1	com.ibm.websphere.naming.WsnInitialContextFactory	iiop://localhost:2810
WebLogic アプリケーション・サーバー、バージョン 8.1	weblogic.jndi.T3InitialContextFactory	t3://localhost:7001

関連タスク

51 ページの『第 9 章 ベンダー提供のアプリケーション・サーバーにコンテンツ統合サーバーをデプロイする』

コンテンツ統合サーバーは WebSphere Application Server バージョン 6.0.1、WebSphere Application Server バージョン 5.1.1、および WebLogic Application Server バージョン 8.1 (SP4) にデプロイできます。

第 16 章 コンテンツ統合サーバー EAR パッケージ機能ユーティリティー

別の Web アプリケーションを追加または更新するデプロイメントや、コネクタの従属ライブラリーを追加するデプロイメント用に、コンテンツ統合サーバーのエンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを再パッケージ化する必要がある場合があります。

EAR パッケージ化ユーティリティーは、修正コンテンツや適切な application.xml デプロイメント記述子を使用して EAR ファイルを作成する、簡単で一貫性のある方法を提供します。EAR パッケージ化ユーティリティーには、以下のパラメーターが組み込まれます。

-libraryJars

組み込む必要のある任意の従属 JAR ファイルの相対あるいは完全修飾名を指定できます。通常、`ICE_HOME/lib/vbr.jar` を指定します。また、ここで、コネクタ固有の JAR ファイルを組み込むことができます。ここで組み込んだ JAR ファイルはアーカイブに追加され、マニフェストおよびデプロイメント記述子に指定されます。

-appDirs

組み込む必要のあるエンタープライズ Bean および WAR ファイルが含まれるディレクトリーへの絶対あるいは相対パスを指定できます。複数のディレクトリー名の場合は、コンマで区切ってください。

-updateEJBManifests

このパラメーターは、エンタープライズ Bean および WAR ファイルのマニフェスト・ファイルを最終の EAR ファイルにパッケージ化する前に、これらのファイルで指定ライブラリー (-libraryJars) を参照するように変更する指示を、EAR パッケージ化ユーティリティーに出すオプション・スイッチです。

-appName

このパラメーターは、作成する EAR ファイルの名前を指定します。EAR ファイルは、.ear 拡張子を使用します。

パッケージ化ユーティリティーを実行する前に WebSphere Information Integrator Content Edition に組み込まれている run_sample スクリプトを使用して、適切な Java クラス・パスを設定することができます。

次のコマンド例を使用すると、MyApplication.ear という名前の EAR file を作成します。これには、標準的なコンテンツ統合サーバー・ライブラリー (Documentum Foundation Classes (DFC) JAR ファイル、コンテンツ統合サーバー・エンタープライズ Bean、コンテンツ統合サーバー WAR ファイル、および、カスタム WAR ファイル) が含まれます。

```
./run_sample.sh com.venetica.vbr.util.EarPackager -libraryJars
../lib/vbr.jar,/documentum/shared/dfc.jar -appDirs
../ejb,..war,/usr/home/servlets -updateEJBManifests -appName MyApplication
```

VeniceBridge EAR ファイルを再ビルドするためのショートカットとして rebuild_ear スクリプトを使用できます。

次のコマンドは、UNIX で VeniceBridge EAR ファイルを再ビルドする方法を示します。

```
./rebuild_ear.sh
```

次のコマンド例は、Windows で VeniceBridge EAR ファイルを再ビルドする方法を示します。

```
./rebuild_ear.bat
```

関連概念

リポジトリ・ライブラリーへのコネクター・アクセス

第 17 章 データ・ストア・サービスの開始

データ・ストア・サービスは、アプリケーション・サーバーの外で実行されるネイティブ・コンポーネントです。

手順

データ・ストア・サービスを開始するには以下のようにします。

- Windows では、このサービスは「**IBM WebSphere II Content Edition Data Store Service**」という名前の Windows サービスとしてインストールされます。これは、サーバーの開始時に自動的に開始されます。サービスは、「サービス・マネージャー」を使用して手動でも開始できます。この「サービス・マネージャー」は、「コントロール パネル」→「管理ツール」にあります。
- UNIX では、次のシェル・スクリプトを使用してデータ・ストア・サービスを開始します。

```
IICE_HOME/bin/rdsservice.sh
```

関連概念

データ・ストアでの作業

関連タスク

17 ページの『第 5 章 シングル・サーバーへの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール』

シングル・サーバーのインストールは、最少の手順で済み、すべての主要な WebSphere Information Integrator Content Edition 機能へのアクセスが可能になります。

21 ページの『第 6 章 分散環境への WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール』

WebSphere Information Integrator Content Edition を分散サーバー環境に、インストールすることができます。

32 ページの『WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 にコンテンツ統合サーバーを自動デプロイする』

WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に、コンテンツ統合サーバーをアプリケーションとして自動的にデプロイするには、runDeployment スクリプトを使用します。

79 ページの『第 20 章 コンテンツ統合サーバーの開始』

WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールしてデプロイした後に、コンテンツ統合サーバーを開始できます。

第 18 章 製品情報とヘルプへのアクセス

IBM Web サイト上またはイントラネット・サーバー上で製品情報とヘルプにアクセスすることができます。

デフォルトでは、製品は IBM Web サイト上の文書にアクセスします。イントラネット・サーバー上で文書にアクセスする必要がある場合、*WebSphere Information Integrator* インフォメーション・センター CD から文書をインストールして、イントラネット・インフォメーション・センターを使用するように Web クライアントと管理ツールを構成する必要があります。

関連タスク

『WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール』

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターをインストールして、イントラネットから アクセスできるようにできます。

74 ページの『イントラネット・インフォメーション・センターを使用するための Web クライアントと管理ツールの構成』

Web クライアントと管理ツールを構成して、イントラネット・インフォメーション・センターを使用することができます。

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターをインストールして、イントラネットからアクセスできるようにできます。

手順

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターをインストールするには、次のようにします。

1. *WebSphere Information Integrator* インフォメーション・センター CD をドライブに挿入します。UNIX システムの場合は、CD のマウントも必要です。
2. コマンド行から WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール・ウィザードを開始します。

AIX ./setupaix を入力します。

Linux ./setupLinux.bin を入力します。

Solaris (SPARC)

./setupSolaris.bin を入力します。

Solaris (Intel x86)

./setupSolarisx86.bin を入力します。

UNIX (コンテンツ統合サーバーでサポートされていない UNIX オペレーティング・システムの場合)

./setupUnix.sh を入力します。

Windows

setupwin32.exe を入力します。

また、以下のコマンドのいずれかを入力してインストール・ウィザードを開始する方法もあります。

標準モード

```
java -cp setup.jar run
```

無音モード

```
java -cp setup.jar run -silent -optionsresponse_file
```

コンソール・モード

```
java -cp setup.jar run -console
```

応答ファイル・テンプレート

```
java -cp setup.jar run -options-template response_file
```

応答ファイルに対する記録オプション

```
java -cp setup.jar run -options-record response_file
```

3. インストール・ウィザードがインストールをガイドします。

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストールが完了したら、インストールしたイントラネット・インフォメーション・センターを使用するように Web クライアントと管理ツールを構成する必要があります。

関連概念

73 ページの『第 18 章 製品情報とヘルプへのアクセス』

IBM Web サイト上またはイントラネット・サーバー上で製品情報と ヘルプにアクセスすることができます。

関連タスク

『イントラネット・インフォメーション・センターを使用するための Web クライアントと管理ツールの構成』

Web クライアントと管理ツールを構成して、イントラネット・インフォメーション・センターを使用することができます。

77 ページの『第 19 章 インフォメーション・センターの開始』

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターには、コンテンツ統合サーバーの文書があります。WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をご使用の場合、インフォメーション・センターにはエンタープライズ・サーチの文書も含まれています。

イントラネット・インフォメーション・センターを使用するための Web クライアントと管理ツールの構成

Web クライアントと管理ツールを構成して、イントラネット・インフォメーション・センターを使用することができます。

始める前に

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール

手順

Web クライアントと管理ツールを構成してイントラネット・インフォメーション・センターを使用するには、以下のようにします。

1. 管理ツールを開始します。
2. 「編集」 → 「オプション」をクリックし、「文書 URL」プロパティを変更して、インストール済みの WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターの URL を指定します。デフォルトで、「文書 URL」プロパティには IBM Web サイトをホストとしたインフォメーション・センターの URL が設定されます。このプロパティを次の URL フォーマットを使用して変更します。ここで、*hostname* はインフォメーション・センターをインストールしたコンピュータの名前で、デフォルトのポート番号は 8888 です。

`http://hostname:portnumber/help/topic/`

3. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

これで、Web クライアントと管理ツールは、インストール済みの WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターを使用するようになります。

関連概念

73 ページの『第 18 章 製品情報とヘルプへのアクセス』

IBM Web サイト上またはイントラネット・サーバー上で製品情報と ヘルプにアクセスすることができます。

関連タスク

73 ページの『WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール』

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターをインストールして、イントラネットから アクセスできるようにできます。

第 19 章 インフォメーション・センターの開始

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターには、コンテンツ統合サーバーの文書があります。WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をご使用の場合、インフォメーション・センターにはエンタープライズ・サーチの文書も含まれています。

手順

インフォメーション・センターを開始するには以下のようにします。

Windows

デスクトップから、「スタート」 → 「すべてのプログラム」 → 「WSIIC」 → 「インフォメーション・センターの開始」をクリックします。

コマンド行で、次を入力します。

```
C:%Program Files%IBM%WebSphereIIInformationCenter%ibm_help%IC_start.bat
```

UNIX、AIX、Linux

コマンド行で、次を入力します。

```
/opt/IBM/WebSphereIIInformationCenter/IC_start.sh
```

関連タスク

73 ページの『WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターのインストール』

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターをインストールして、イントラネットから アクセスできるようにできます。

第 20 章 コンテンツ統合サーバーの開始

WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールしてデプロイした後、コンテンツ統合サーバーを開始できます。

手順

コンテンツ統合サーバーを開始するには以下のようにします。

1. *FastObjects* サーバーを開始します。
 - UNIX でこのサーバーを開始するには、`IICE_HOME/bin/rdsservice.sh` と入力します。
 - まだサービスが開始されていない場合に、Windows でこのサーバーを開始するには、「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」にナビゲートして、「IBM WebSphere II Content Edition データ・ストア・サービス」を開始します。
2. サーバーを再始動する前に、ご使用の環境のセットアップをします。
 - Windows では、コマンド・ウィンドウをオープンし、`IICE_HOME%bin%config.bat` と入力します。
 - UNIX では、シェルをオープンし、`IICE_HOME/bin/config.sh` を読み込みます。たとえば、`config.sh` ファイルを読み込んで実行するには、次のように入力します。`IICE_HOME/bin/config.sh`

コンテンツ統合サーバーを、インストール後に手動または自動でデプロイする場合、サーバーの再始動のたびにご使用の環境をセットアップするコマンドを実行する必要があります。これは、アプリケーション・サーバーがデータ・ストアにアクセスしようとするときのエラーを回避するためです。コマンドを実行しない場合、次のエラー・メッセージが生成されます。

```
Problems loading native libraries: Cannot find library pt95Jrt
(libpt95Jrt.a or .so) in sun.boot.library.path or java.library.path
```

コンテンツ統合サーバーのインストール時に、自動デプロイメント・オプションを選択すると、インストーラー・プログラムによってサーバー開始スクリプトが変更されるので、ステップ 2 は必要ありません。

3. 同じコマンド・ウィンドウまたはシェルを使用して、*IICEServer* アプリケーション・サーバーを停止します。
4. アプリケーション・サーバーが停止したら、*IICEServer* アプリケーション・サーバーを開始します。

関連タスク

71 ページの『第 17 章 データ・ストア・サービスの開始』

データ・ストア・サービスは、アプリケーション・サーバーの外で実行されるネイティブ・コンポーネントです。

第 21 章 WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール

WebSphere Information Integrator Content Edition のアンインストール・プログラムは、サブスクリプション・イベント・サービス、Web クライアント、およびコネクターを含む WebSphere Information Integrator Content Edition を除去します。

手順

WebSphere Information Integrator Content Edition をアンインストール・プログラムで除去するには以下のようにします。

1. `IICE_HOME` インストール・ディレクトリーの `_uninst` ディレクトリーに進みません。
2. アンインストール・プログラムを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインし、`uninstaller.bin` を入力します。

Linux root ユーザーとしてログインし、`uninstaller.bin` を入力します。

Solaris (SPARC)

root ユーザーとしてログインし、`uninstaller.bin` を入力します。

Solaris (Intel x86)

root ユーザーとしてログインし、`uninstaller.bin` を入力します。

UNIX (コンテンツ統合サーバーでサポートされていない UNIX オペレーティング・システムの場合)

root ユーザーとしてログインし、`uninstaller.sh` を入力します。

Windows

`uninstaller.exe` ファイルをダブルクリックするか、または `uninstaller.exe` を入力します。

また、以下のコマンドのいずれかを入力して WebSphere Information Integrator Content Edition を除去する方法もあります。

- `java -cp uninstall.jar run`
- `java -cp uninstall.jar run -console`

アンインストーラーの場合、コンソール・モードはテキスト専用インターフェースです。

3. アンインストール・プログラムの開始後に、アンインストーラー・ウィザードの言語を選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 残りのプロンプトに応答します。
6. アンインストール・サマリーのウィンドウで、お客様の構成を見直してから、「アンインストール」をクリックします。
7. アンインストールが正常終了したと通知するウィンドウで、「完了」をクリックします。

8. WebSphere Information Integrator Content Edition を Windows オペレーティング・システムにインストールしている場合は、コンピューターを再始動する必要があります。

関連タスク

17 ページの『第 5 章 シングル・サーバーへの WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール』

シングル・サーバーのインストールは、最少の手順で済み、すべての主要な WebSphere Information Integrator Content Edition 機能へのアクセスが可能になります。

21 ページの『第 6 章 分散環境への WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール』

WebSphere Information Integrator Content Edition を分散サーバー環境に、インストールすることができます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名)(西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _西暦年 (複数可) を入力_. All rights reserved.

商標

ここでは、IBM の商標と、特定の IBM 以外の商標をリストします。

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM
AIX
DB2
Domino
Hummingbird
Lotus
Lotus Notes
MQSeries
WebSphere

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

IBM と連絡を取る

見積もり依頼・購入相談 (IBM ソフトウェアダイレクト):

電話および Web からのお問い合わせ情報:

<http://www.ibm.com/jp/software/ecatalog/contactus/>

サービスに関するお問い合わせ: 弊社担当営業にお問い合わせください。

Information Center の記載内容に関するお問い合わせ:

<https://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

製品情報

WebSphere Information Integrator に関する情報は、電話、または Web により入手できます。

1. 見積もり依頼・購入相談 (IBM ソフトウェア ダイレクト) :

- お電話による問い合わせ : 0120-450-260

- Web による問い合わせ :

 - <https://www-6.ibm.com/jp/domino03/software/ecatalog.nsf/qu1?OpenForm>

2. 製品情報 : http://www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/editions_content.html

3. Web の www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/supportcontent.html (英語のみ) にアクセスしてください。

このサイトには、次の最新情報が入っています。

- 技術ライブラリー
- 資料の注文方法
- 製品のダウンロード
- ニュースグループ
- フィックスパック
- ニュース
- Web リソースへのリンク

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストール, WebSphere Information Integrator Content Edition の 81
インストール
概要 1, 11
シングル・サーバー 17
分散環境 21
インフォメーション・センター
インストール 73
開始 77
構成 74
エンタープライズ・アーカイブ (EAR) パッケージ化ユーティリティ 69
エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイル
再パッケージ化, デプロイメント用に 69

[カ行]

開始, コンテンツ統合サーバーの 79
開始, WebSphere Application Server の 28
管理コンソール
開始 29
ナビゲート 30
管理ツール
構成, イントラネット・インフォメーション・センターを使用するための 74
クラス・パス
設定, 直接モード操作の 25
コネクタ
サポートされるリポジトリ 6
コンテンツ統合サーバー
インストール 17, 21
インストール, インフォメーション・センターの 73
エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイル 69
オプション・パッケージ 1
開始 79
開始, インフォメーション・センターの 77

コンテンツ統合サーバー (続き)
管理, WebSphere Application Server の 27
構成, WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 用の 47
構成, WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の 42
構成, サブスクリプション・イベント・サービスの 33, 48
構成, WebLogic 用のサブスクリプション・イベント・サービスの 55
構成する, リモート・コンピュータをクライアントとして 63
コンポーネント 1
実行, 直接モードで 25
自動デプロイメント, WebSphere Application Server に 32
デプロイする, ベンダー提供のアプリケーション・サーバーに 51
デプロイする, WebLogic アプリケーション・サーバーに 53
デプロイする, WebSphere Application Server バージョン 5.1.1 に 43
デプロイする, WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 に 38
デプロイメントの概要 27
文書の規則 27
リモート・コンピュータを, コンテンツ統合サーバーに対するクライアントとして 63

[サ行]

サブスクリプション・イベント・サービス
構成, WebSphere Application Server バージョン 5.1 用の 48
構成, WebSphere Application Server バージョン 6.0.1 用の 33
構成, WebLogic アプリケーション・サーバー用に 55
サポートされるオペレーティング・システム 5
セキュリティ
WebLogic アプリケーション・サーバー 59
ソフトウェア要件 5

[タ行]

直接モード
構成 25

直接モード (続き)
変更, クラス・パスの 25
データ・ストア・サービス
開始 71
停止, WebSphere Application Server の 28
ディスク・スペース要件 9

[ハ行]

ハードウェア要件 9
プロキシ・コネクタ要求 61
プロファイル, WebSphere Application Server 用 31
文書 77
ベンダー提供のアプリケーション・サーバー 51

[ラ行]

リポジトリ
サポートされるバージョン 6

J

Java
クライアント・デプロイメント 67
必要なレベル 5
API 67

R

Remote Method Invocation (RMI) プロキシ・コネクタ・サーバー
開始 61
RMI プロキシ・コネクタ 25

W

Web アプリケーション
デプロイ, 展開形式で 65
WebLogic アプリケーション・サーバーセキュリティ 59
WebSphere Application Server
開始, 管理コンソール 29
開始と停止 28
管理 27
作成, プロファイルの 31
ナビゲート, 管理コンソールの 30

WebSphere Information Integrator

インフォメーション・センター 77

WebSphere Information Integrator Content

Edition

アンインストール 81

オプション・パッケージ 1

開始 79

コンポーネント 1

シングル・サーバーのインストール

17

データ・ストア・サービス 71

分散環境のインストール 21



Printed in Japan

GD88-6743-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12